

学ぶ意欲をはぐくむ

—「学習に関するアンケート」を活用して—



平成 23 年 3 月
栃木県総合教育センター

はじめに

学校教育法の改正によって、主体的に学習に取り組む態度が、学力の3つの要素の1つとして示されました。国際的な学力調査の結果においても、児童生徒の学習意欲について課題があるとされており、各学校では、その解決に向けて様々な工夫をしているところです。

栃木県総合教育センターでは、平成21、22年度の2か年、児童生徒の学ぶ意欲をはぐくむための指導の在り方について、質問紙法を用いた学ぶ意欲の把握とその結果を生かした授業改善の視点から研究してまいりました。

昨年度は、学ぶ意欲のとらえ方、意欲が育つプロセス、測定の仕方等の基本的な考え方について研究し、リーフレットと学校で活用できる質問紙「学習に関するアンケート」を作成しました。本年度は、昨年度の研究を生かし、研究協力校に、質問紙調査の実施を依頼して、その結果を分析し、学ぶ意欲をはぐくむための授業づくりに取り組んでいただきました。

本冊子は、学ぶ意欲の基本的な考え方、質問紙調査結果の授業改善への生かし方、学ぶ意欲をはぐくむための工夫を施した授業の例、学ぶ意欲をはぐくむ校内研修プログラムをまとめたものです。各学校で、学ぶ意欲を向上させるために御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本調査研究を進めるにあたり、御指導、御助言を賜りました筑波大学大学院人間総合科学研究科教授 櫻井茂男先生ならびに、御協力いただいた研究協力校の先生方に対しまして、厚く御礼申し上げます。

平成23年3月

栃木県総合教育センター所長

瓦井 千尋

目 次

はじめに

第1章	学ぶ意欲をはぐくむには	1
1	学ぶ意欲とは	
2	学ぶ意欲はどう形成されるのか	
3	学ぶ意欲をはぐくむ環境とは	
4	学ぶ意欲をはぐくむ授業とは	
5	学ぶ意欲をどう把握するか	
6	校内研修を通してはぐくむ	
第2章	学ぶ意欲を測るアンケート	15
1	「学習に関するアンケート」について	
2	「学習に関するアンケート」の分析と活用	
3	「学習に関するアンケート」の結果	
第3章	学ぶ意欲をはぐくむ授業 —研究協力校の実践—	23
1	岩舟町立静和小学校	
2	さくら市立南小学校	
3	那須塩原市立東那須野中学校	
4	佐野市立西中学校	
第4章	学ぶ意欲を高める校内研修	59
プログラム1	学ぶ意欲に関する課題の把握	
プログラム2	学ぶ意欲を向上させる働きかけの工夫	
プログラム3	学ぶ意欲を高める授業研究会	
プログラム4	学ぶ意欲を高める実践報告会	
研究のまとめ	学ぶ意欲をはぐくむ7つのポイント	68
資料	「学習に関するアンケート」調査用紙	69
	「学習に関するアンケート」レーダーチャート(例)	
参考文献		73

第1章

学ぶ意欲をはぐくむには

学ぶ意欲の基本的な考え方についてまとめました。

学ぶ意欲とは

学習指導要領が改訂されましたが、今回の改訂においても、「生きる力」をはぐくむという理念が継承され、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた育成が重視されています。

さらに、確かな学力の構成要素である知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力等の育成とのバランスを重視すること、学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養い、家庭との連携を図りながら学習習慣を確立することも改訂の基本方針として示されました。

学習意欲は、基礎的・基本的な知識・技能やそれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を高める上での基盤となるものとしてとらえることができます。

ところで、学ぶ意欲とは、一体どのようなものなのでしょうか。

先行研究によると、学ぶ意欲についてはいろいろなとらえ方がありますが、本調査研究では、次のように定義しました。

(*本調査研究では、「学習意欲」と「学ぶ意欲」を同義ととらえる。)

学ぶ意欲とは…

学習者が意思をもって、自発的に学習活動を求めようとする心の働き

○学習活動そのものに対する欲求…「学ぶこと自体がおもしろい」「知りたいから学ぶ」

○自己実現の手段としての欲求……「よい成績を取りたい」

「希望する職業に就くために学習する」

つまり、**学ぶ意欲**には、「学びたい」という気持ちと、「目標を達成するために粘り強く学んでいこう」という気持ちが含まれます。

(リーフレット「学ぶ意欲をはぐくむ」より 栃木県総合教育センター 平成 22 年3月)

学ぶ意欲をこのようにとらえ、本冊子では、学ぶ意欲が育つ過程や測定法、授業における効果的な働きかけの方法について述べていきます。

参 考

「学校教育法 第30条第2項、第48条、第52条」 (平成19年6月27日公布)

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

学力の三要素

(中教審答申より 平成20年1月)

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力 等
- ③ 学習意欲

学習指導要領解説 総則編より

(平成20年8月)

個別指導やグループ指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導など個に応じた指導の充実により分かる喜びを実感したり、観察・実験やレポートの作成、論述などの体験的な学習や知識・技能の活用を図る学習活動、職業や自己の将来に関する学習などを通して学ぶ意義を認識したりすることで学習意欲を高めることが求められる。

2

学ぶ意欲はどう形成されるのか

学ぶ意欲をはぐくむために、教師は授業をはじめとする様々な場面で、児童生徒に対し、いろいろな働きかけをしています。児童生徒の実態に応じて、より効果的に働きかけるには、学ぶ意欲を構成する要素や学ぶ意欲が育つプロセスに注目する必要があります。

右頁の図は、学ぶ意欲の構成要素や学ぶ意欲が育っていくプロセスを模式的に表したものです。学ぶ意欲をはぐくむ上で土台となるのが「安心して学べる環境」です。学ぶ意欲が発現するプロセスには、「欲求・動機」レベル、「学習行動」レベル、「認知・感情」レベルの三つのレベルがあります。

「安心して学べる環境」のもとで、「知的好奇心」「有能さへの欲求」「向社会的欲求」の欲求・動機が、具体的な学習行動として表れ、その結果として、「おもしろさ・楽しさ」「有能感」「充実感」の認知・感情が生じます。この「認知・感情」は、新たな「欲求・動機」「学習行動」につながります。このように、「安心して学べる環境」のもとで、「欲求・動機」「学習行動」「認知・感情」が循環し、学ぶ意欲が育っていきます。

したがって、学ぶ意欲をはぐくむには、「欲求・動機」「学習行動」「認知・感情」の各プロセスにおける教師の意図的な働きかけが重要となります。

本冊子において、「働きかけ」とは、授業の構想、学習方法、指導方法、言葉かけと、とらえています。

コラム

「独立達成」と「協同学習」について

「独立達成」とは、自分の潜在的な能力を開花させるために、できるだけ自分一人の力で問題を解決しようとする行動です。どうしても一人の力で解決できないときは、教師や友達、保護者等のサポートが必要です。

「協同学習」とは、「向社会的欲求」の影響を強く受けている学習行動です。自分だけでは解決できない問題でも、友達等と協力すれば解決できることもあります。そこで、協力の重要性や学習の効率性の面において、「協同学習」は近年、重要な学習方法として位置付けられるようになりました。

一見、相反する構成要素のように感じられる「独立達成」と「協同学習」ですが、これらを組み合わせ、繰り返すことで、学習の深まりが期待できるのです。



[各構成要素の解説]

レベル	構成要素	解説
認知・感情	おもしろさ・楽しさ	結果に依存しない感情で、失敗したとしても感じる事ができ、知的的好奇心が活性化していれば得られる感情。
	有能感	学習行動がうまくいったとき、成功したときに感じる事が多い感情。ほめられることにより、高まることもある。
	充実感	向社会的欲求に基づく動機が達成された場合に感じる事ができる感情。
学習行動	情報収集	主に知的的好奇心によって、興味・関心のあることについて情報を集める行動。
	自発学習	自ら進んで学習に取り組んだり、計画を立てて学習をしたりする行動。
	挑戦行動	今よりも少し難しい問題に挑戦する行動。
	深い思考	問題の解決法を複数考えたり、よりよい解決法を考えたり、仮説や考えを自分なりに吟味したりする行動。
	独立達成	できるだけ自分一人の力で問題を解決しようとする行動。
	協同学習	友達と協力して問題を解決する行動。
欲求・動機	知的的好奇心	未知のことや珍しいことに興味・関心をもち、それらを探究したいという欲求。
	有能さへの欲求	より有能になりたい、より賢くなりたいという欲求。
	向社会的欲求	社会や人のためになりたいという欲求。思いやりの気持ちとも関連する。

子どもを取り巻く環境には、物的環境と人的環境があります。これらの環境を整備し、安心して学べる環境をつくるのが、児童生徒の学ぶ意欲を高める上で重要なポイントです。

まず、教室内外の物的環境についてです。きれいに整理・整頓されていることはもちろんですが、児童生徒が学ぶ場であるという視点が不可欠です。例えば、現在学習している内容に関する本が手に取れるように置いてあることや、資料が掲示されているといったことです。授業で学習したことについて興味や関心が高まったときに、関連する本や資料が目に触れる、あるいは手に取ることができる環境にしておきます。

多くの教室には、児童生徒の学習の成果が掲示されています。こうした学習の成果も、子どものやる気を高めるきっかけとなります。配慮すべき点は、作品が曲がっていたり、折れていたやしないよう常時点検し、大切に扱われていることが子どもにも感じられるようにすることです。このことは子どもの精神的な安定につながります。

次に、教師や友達などの人的環境についてです。学ぶ意欲をはぐくむ上で、教師は、子どもにとって特に重要な人的環境です。「先生は、自分のよいところを見てくれている」「温かい目で見守ってくれている」「自分に期待をかけてくれている」と思えることが、学ぶ意欲の土台となる安心感につながります。

一人一人を大切に受け止め、様々な教育活動の中で、子どもを生かし伸ばしているこうとする教師の姿勢は、子どもたちに伝わり、子ども相互の人間関係にも影響を与えます。この点に留意し、学級内の人間関係づくりに努めなければなりません。「発表を真剣に聞いてもらえる」「間違っても、笑われない」など、学級の雰囲気によければ、子どもは萎縮せずに学習活動に取り組むことができます。

教師の受容的な態度と、子ども同士が互いに認め合い高め合おうとする雰囲気が、安心して学べる環境と言えます。

なお、栃木県教育委員会では、学びに向かう集団づくりや子どもが意欲的に取り組む授業づくりの資料として、リーフレット「あなたは、学業指導を知っていますか！（平成21年）」を作成しましたので、参考にしてください。

安心して学べる環境づくりのポイント

〔物的環境〕

○ 学びたくなる環境を整備する

- ・学習している内容の資料を掲示したり、調べる本を教室に準備しておいたりする。
- ・学習の成果が分かる子どものワークシートや作品などを丁寧に掲示する。
- ・作品には、教師からの温かい評価のコメントや友達からの言葉を添える。

〔人的環境〕

○ 子どもの視点に立ち、子どもを肯定的にみる

- ・子どもは「もっとできるようになりたい」などの向上心をもっていることを、教師が認識する。
- ・子どもの姿を丁寧に観察し、発想や考え方、活動の仕方などのよさやつまずきの原因などを見抜き、前向きな言葉かけをする。
- ・予想外の発言に対してすぐに否定するのではなく、その発言に至った理由を聞き、子どもの思考過程の理解に努める。

○ 子どもの意思を尊重し、自発性を育てる

- ・学習のルールを決めておく。ただしルールや型を強調しすぎず柔軟な対応をする。
- ・「やってみたい」「こう学びたい」などの欲求を大切にし、課題の与え方や授業形態の組合せなどを工夫する。
- ・自分の課題を見つけられるように支援し、自分の力で解決させて賞賛する。

○ 意図的に働きかけて、一人一人の子どもを生かす

- ・学び合う場や協力し合う場を意図的に設定する。
- ・活動の様子を見守り、消極的になりがちな子どもの意見を取り上げるなど、友達のよい考えや長所に気付けるように支援する。
- ・学び合いの様子を丁寧に観察し、取り上げられなかった意見の中によさがある場合には、教師が取り上げ、広めるようにする。



○ 学び続ける姿を通して、学ぶ意義を伝える

- ・教師自身が様々なことに好奇心をもち、学び続ける姿を示す。
- ・自らが関心をもっていること、読書や経験から得たことなどについて子ども達に伝える。
- ・学問、スポーツ、芸術など様々な分野で活躍している人の生き方を紹介する。



子どもの興味・関心、学ぶ理由、目標などは、成長とともに変化していきます。こうした子どもの発達段階や実態を踏まえて、各教師は自らの経験を基に、興味・関心を高めるための働きかけを行っていますが、授業の展開や学ぶ意欲をはぐくむための働きかけには、その教師なりの傾向や特徴があります。

学ぶ意欲をはぐくむ授業づくりを考える際に、p 5に示した「学ぶ意欲のプロセスモデル」が参考になります。学ぶ意欲が育つプロセスに着目し、その構成要素に意図的に働きかけることで、学ぶ意欲は向上するものと考えられます。「欲求・動機」「学習行動」「認知・感情」は密接に関わっているため、一つの働きかけが複数の要素に影響を与えることがあります。また、学ぶ意欲を高めようとして、授業のねらいの達成を目指すことから外れないように留意する必要があります。

そして、教師が子どもの学習の様子を見守りながら、状況に応じて教師による言葉かけを工夫したり、子ども自身による振り返りを行ったりすることが重要です。

(1) 授業における働きかけ

学ぶ意欲のベースとなるのが、「知的好奇心」「有能さへの欲求」と言われています。この二つに働きかける授業を構成すれば、子どもは興味や関心をもって学習に取り組むことができると考えられます。

◆ 分かる授業ではぐくむ

学ぶ意欲をはぐくむ上で、「分かる授業」を行うことは必要不可欠です。教師の説明をよく聞いていれば理解できるという授業ばかりでなく、実験したり、考えたり、話し合ったりしていくうちに、「最初は分からなかったことが、分かった」といった場面を、多く設定することが大切です。子どもが体験や努力をして分かるような授業をすることにより、「もっと知りたい」「もっとできるようになりたい」などの欲求を引き出すことが可能になります。



◆ 実生活と関連する授業ではぐくむ

身近な事柄と関連のある授業は、子どもの興味・関心を高めます。また、学習したことが生活の中でどのように使われているかを考えさせたり、見つけたりさせることで、学習したことが生活に役立つことを実感できます。すると、学んだことを家庭で話題にしたり、再び学習に取り組んだりして、学びが深まっていくことが期待できます。

各プロセスへの働きかけ（例）

学
ぶ
意
欲

認知・感情への働きかけ

学習の成果の確認（充実感、おもしろさ・楽しさ）

- ・学習したことを作品、ポートフォリオなどにまとめさせ、学習の振り返りができるようにする。

ポジティブな個人内評価（有能感）

- ・教師から作品のよさ、個人内の伸びなどよい面への評価を与えるとともに、自己評価をさせる。

学習行動への働きかけ

応用・発展の課題（挑戦行動）

- ・応用・発展の課題を提示し、自分で工夫して学習させる。

学び合い、教え合いの場（協同学習、深い思考）

- ・友達との考えを比較する場を設定し、様々な見方、考え方に気付かせる。

主体的に学ぶ場（自発学習、情報収集）

- ・課題や学習方法を選択させ、次第に自ら課題を見いだせるように指導する。

自己決定・自力解決の場（独立達成）

- ・目標を決めさせる。
- ・みんなで考えたことを基に、自分でまとめさせる。

欲求・動機への働きかけ

自分の特性や長所の自覚（向社会的欲求）

- ・様々な体験活動や自己評価
- ・相互評価などを通して、自分の特性やよさに気付かせる。

児童期からのキャリア教育（向社会的欲求）

- ・社会で活躍する様々な人に目を向けさせ、夢や目標をもたせる。

めざす姿や作品の提示（有能さへの欲求）

- ・作品や演技など、めざす姿や形を例示し、実現のための具体策を考えさせたり、指導したりする。

学習の見通しをもたせる（有能さへの欲求）

- ・単元の学習の見通しをもたせて励まし、「自分にもやれそうだ」というイメージを抱かせる。

子どもの生活実態と教材との関連

（知的的好奇心）

- ・子どもの興味や日常生活と教材を関連付ける。

疑問や意外性を生み出すしかけづくり

（知的的好奇心）

- ・「なぜ」「えっ、そうなの」など、疑問や意外性を感じさせる場面を設定する。

(2) 学習状況に応じた言葉かけ・振り返り

◆ 教師による言葉かけ

学習活動中のタイミングのよい励ましの言葉は、子どもに安心感を与え、学習の推進力となります。励ましを受けたことで、一人でやり遂げようとしたり、多くの問題に挑戦したり、別の方法で解こうとしたりするなど、自ら学習を進めていく力を得ることがあります。

また、授業の終わりや単元末では、子どもが「おもしろさ・楽しさ」「有能感」「充実感」などを感じられるように、肯定的な言葉かけをすることが大切です。

子どもは、その子なりの発想をもっており、それが認められることによって、知的好奇心が高まります。教師は個性的・多面的な発想を受け止め、認めるように心がけることが大切です。

効果的な言葉かけについて学ぶには、校内で授業を観察し合い、教師の言葉かけに対する子どもの反応等を、授業研究会等で話し合うことが有効です。

◆ 子どもの振り返り

子ども自身による振り返り（自己評価）では、適切な目標をもたせること、学習状況を適時に振り返らせることが大切です。このことが、「有能感」や「自分で自分を励ましながら学習する力」を育てることにつながります。

また、目標を明確にし、学習のゴールを意識させることで、「自分にもできそうだ」という見通しをもつことができるようになります。

小学校の高学年の頃から、子どもは徐々に客観的な自己評価ができるようになります。自分の学習状況をモニターして、うまくいっていない場合は軌道修正をし、目標が達成できるように学習を進めていく調整能力も発達してきます。中学生になると教科の得意・不得意がはっきりしてくるため、努力してもすぐにはよい結果を得られないが増えてきます。そこで、昨日の自分と比べて、「努力してこれだけ伸びた」という実感、つまり、自己の成長に基づく有能感を大切にします。授業の振り返りをさせ、それに対して教師が共感、賞賛するなどして、適切に自己評価できるように支援していきます。

例えば、極端に自分に厳しい評価をする子どもには、「あなたは、～をがんばっていましたね。今日の目標は達成できましたね。」などと、教師が観察した学びのよさを伝えましょう。

教師による言葉かけと、子どもの振り返りの例を次に示します。実際の授業の場面では、このような言葉に授業の内容に関わる具体的な言葉が加わります。

教師による言葉かけ（例）

- ・よく考えたね。目の付け所がいいね。
- ・実におもしろい発想だね。なかなか思いつかないよ。
- ・その方法でいいよ。最後までがんばってみよう。
- ・すごいね。あなたは、〇〇が得意なのね。
- ・粘り強く取り組んだから、分かりやすくまとまったね。
- ・このグループは話合いで前向きな意見が出せたから、いい作品に仕上がったね。
- ・この調子で取り組めば、目標が達成できると思うよ。



「何がどのようによいかということ」を伝え続けると、子どもに適切な自己評価能力が身に付いていきます。

子どもの振り返り（例）

- ・自分で計画し、調べてまとめられた。
- ・友達に解き方を教えることができた。
- ・友達の助言を参考に書き直したら、分かりやすい文章になった。
- ・この部分はできななかったけれど、あと一歩だった。もう一度確認して、次はできるようにしよう。
- ・難しい問題があったけれど、最後まであきらめずにがんばれた。

自己強化

成長するにつれて、課題が難しくなるため、自分で自分を励まして学習していく力が必要になります。成功したときに自分をほめ、失敗したときに自分を励ます能力を高めるように支援することが大切です。心理学では、これを「自己強化」の能力と言います。

アトランタ五輪で、女子マラソンの有森裕子さんがゴールしたときにおっしゃった「自分を自分でほめてあげたい」の名言は、「自己強化」から生まれたものと考えられます。

学ぶ意欲を高めるための方策や手立てを考える上では、学ぶ意欲の状況を把握していることが必要です。状況を的確に把握することで、授業の改善や個に応じた指導が可能になります。

学ぶ意欲を測定する代表的な方法には、「観察法」「面接法」「質問紙法」があります。授業や単元の展開に応じて、選択したり、組み合わせたりして効果的に用いることが大切です。

また、子どもがどのように感じているかを、授業評価や面接などから把握し、指導の内容や方法について検証することも必要です。

◆ 学ぶ意欲の3つの測定法

○ 観察法

日々の授業で行われている最も基本的な方法です。自分だけではなく、同僚による観察も重要です。

「自分の力で問題を解こうとしているか」「課題を解決したら、難しい問題に取り組んでいるか」「新しい情報に興味を示しているか」などの観点を意識して観察することが大切です。

○ 面接法

教師が必要と思う内容を詳しく調べることができ、家庭における意欲なども含めて、子どもを多面的にとらえることができます。正しい情報を得るためには、信頼関係を築いていることが必要条件となります。

○ 質問紙法

子ども自らが認識している学ぶ意欲の程度を質問紙を用いて調べるもので、短時間に多くの子どものデータが得られます。個人や学級全体などの数値から、傾向を把握して指導にあたることができます。また、複数回実施することで、変容を把握できるため、教師の働きかけの効果の検証にも活用できます。

質問項目（例）

レベル	要素	質問項目
安心して 学べる環境		授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる。
		先生は学習のことについてほめてくれる。
		学校では、落ち着いて学習している。
		クラスは発言しやすい雰囲気である。
欲求・ 動機	知的な好奇心	よくわからないことは、わかるまで調べたい。
		疑問やふしぎに思うことは、わかるまで調べたい。
	有能さへの 欲求	自分もっている能力をじゅうぶんに発揮したい。
		もっとかしこくなりたい。
向社会的 欲求	社会のために役立つような人になりたい。	
	思いやりのある人になりたい。	
学 習 行 動	情報収集	興味のあることは調べずにはいられない。
		わからないことがあると、いろいろな方法で調べている。
	自発学習	テストがあれば、自分で計画をたてて勉強する。
		自分から勉強に取り組んでいる。
	挑戦行動	今までよりも、むずかしい問題に取り組むことが多い。
		むずかしい問題にであうと、よりやる気がでる。
	深い思考	もっとうまい解き方や別の考え方はないかと考える。
		授業では友だちと話すことで、より深く考えることができる。
	独立達成	できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている。
		むずかしい問題にであっても、かんたんには先生や友だちの助けは求めない。
協同学習	授業では友だちと協力して学ぶことも多い。	
	授業では友だちに教えたり、教わったりすることも多い。	
認知・ 感情	おもしろさ 楽しさ	いろいろなことを学ぶことは楽しい。
		失敗しても学ぶことはおもしろい。
	有能感	勉強面では友だちからたよられていると思う。
		自分は勉強がよくできるほうだと思う。
	充実感	毎日、明るく元気に生活している。
		毎日の生活が充実していると感じている。

*この質問項目は、筑波大学大学院の櫻井茂男教授の研究によって得られた尺度により設定したものです。

学ぶ意欲をはぐくむ方策の一つとして、校内研修を充実させることが考えられます。例えば、学ぶ意欲の質問紙調査を行い、その結果を分析して課題を見出したり、子どもへの働きかけのアイデアを出し合ったりすることは、授業改善に大いに役立ちます。

教師は、個々に工夫をして意欲を高めるための働きかけを行っています。その働きかけが有効かどうかを、検証することが必要です。そのためには、互いに授業を公開し、授業研究会や話し合いを通して、気づきを得ることも重要です。

このように、学校全体で学ぶ意欲の向上に取り組むことが大切です。具体的な校内研修のプログラムについては、第4章で紹介していますので参考にしてください。

〔期待できる効果〕

- 一人一人の生徒を多面的にとらえられる。
- 授業研究会を通して、授業を振り返り、改善に生かせる。
- 協議する中で、授業の見方を学べる。
- 学ぶ意欲の構成要素に着目することで、授業を見る視点が増える。
- 構成要素に着目し、複数の目で見ること、見えにくい学ぶ意欲が把握しやすくなる。



〔学ぶ意欲に関する校内研修計画例〕

月	内 容	方 法・備 考
5	学ぶ意欲の理解と自校の課題把握	・リーフレットの読み合わせ
5	第1回アンケート実施と入力作業	・センターホームページよりダウンロード
6	アンケート結果の分析と指導目標設定	・アンケート結果の分析 (講師または学習指導担当)
7	学ぶ意欲の働きかけの工夫	・働きかけについての協議
9	指導案検討	・学ぶ意欲の視点を盛り込んだ授業構想
10	研究授業、授業研究会	・授業の観点を設けた授業研究会
11	第2回アンケート実施と入力作業	・指導目標の見直し
2	成果と課題の確認	・次年度の学校課題設定

第2章

学ぶ意欲を測るアンケート

「学習に関するアンケート」について、その活用法の例を紹介します。

この章で紹介している質問紙「学習に関するアンケート」、及び、集計用のExcelファイルは、栃木県総合教育センターのホームページからダウンロードできますので、ぜひご活用ください。

[アドレス] <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/leaflet/ichiran.htm#enquete>

1

「学習に関するアンケート」について

(1) アンケート用紙について

第1章-5「学ぶ意欲をどう把握するか」で示したとおり、学ぶ意欲を構成する要素を基に質問項目を設定すれば、学ぶ意欲を把握する質問紙を作成することができます。

栃木県総合教育センターでは、櫻井茂男氏の「児童生徒の自ら学ぶ意欲を測定する項目」の中から、「安心して学べる環境」は4項目、その他の構成要素は2項目ずつ選び、次のようなアンケート用紙（p69 参照）を作成しました。小学校3年生以上を対象と考えています。

「児童生徒向けアンケート用紙」は、児童生徒に配布し、回答してもらうためのもので、「教師向け資料」は、児童生徒向けアンケート用紙の各質問項目と各構成要素の関係を示したものです。

児童生徒用アンケート

学習に関するアンケート		年 組 番			
あなたがどのような気持ちで学習しているのか、正直な気持ちを教えてください。 それぞれ、4つの中からあてはまるものを1つえらび、○をつけてください。		1	2	3	4
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
No.	質 問 項 目	1つえらんで○をつけてください。			
例	算数と国語では、算数の方が好きです。	1	②	3	4
1	授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。	1	2	3	4
2	もつとうまい解き方や別の考え方はないかと考える。	1	2	3	4
3	毎日、明るく元気に生活している。	1	2	3	4
4	よくわからないことは、わかるまで調べたい。	1	2	3	4

教師向け資料

学習に関するアンケートの質問項目は、次の要素から作成しました。		教師向け資料
<ul style="list-style-type: none"> ○欲求・動機レベル [知的な好奇心、有能さへの欲求、向社会的欲求] ○学習行動レベル [情報収集、自発学習、挑戦行動、深い思考、独立達成、協同学習] ○認知・感情レベル [面白さと楽しさ、有能感、充実感] ○安心して学べる環境 		
要素	No.	質 問 項 目
安心して学べる環境	1	授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。
深い思考	2	もつとうまい解き方や別の考え方はないかと考える。
充実感	3	毎日、明るく元気に生活している。
知的な好奇心	4	よくわからないことは、わかるまで調べたい。

(2) アンケートの実施について

実施方法

- ・児童生徒には、学習に関して、日頃考えていることを答えるように伝える。
- ・実施時間は、説明も含めて15分程度とする。
- ・出席番号を記入させる。(個に応じた指導に役立てるために)
- ・1から4のうちあてはまるものを1つだけ選び、○を付けさせる。
(複数選択した場合、その項目のみ無効となる。)
- ・子ども自身に質問項目を読ませ、自分のペースで回答させる。
(学級の実態に応じて、教師が質問項目を読み上げることも考えられる。)
- ・全員が終了したら、アンケート用紙を集める。


活用の手順(例)

- ① 年度初めにアンケートを実施し集計する。
 - ② 児童生徒の学ぶ意欲に関する現状分析を行う。
(分析の視点は、後述の「2『学習に関するアンケート』のデータ分析と活用」参照)
 - ③ 分析結果や学校課題等を基に、授業や学級経営等の工夫・改善を行う。
 - ④ 年度末に再びアンケートを実施し集計する。
 - ⑤ 授業や学級経営等の工夫・改善の効果の検証をする。
- *必要に応じて、年度途中にもアンケートを実施し、児童生徒の変容の確認をするとよい。

アンケート結果から、各プロセスと各構成要素の平均値が求められるため、どのように働きかければよいか具体的に分かります。

「学習に関するアンケート」と集計用 Excel ファイルは、下に示したように、栃木県総合教育センターのホームページからダウンロードできますので、ぜひご活用ください。


学ぶ意欲を測定する質問紙調査「学習に関するアンケート」



(1)「学習に関するアンケート」用紙
児童生徒の学ぶ意欲を測定することができます。
小学校第3学年以上を想定して作成しました。

[学習に関するアンケートの例](#) PDF

質問紙はここを右クリックして保存する。



(2)「学習に関するアンケート」入力フォーム
実施したアンケートのデータを入力していただくと、学校、学年、学級、個人別のグラフが表示され、指導の参考になります。ダウンロードしてご活用ください。

[「学習に関するアンケート」入力フォーム.zip](#) ZIP (マクロ機能付きエクセルファイル)
 ↑ 様式を右クリックして、対象(またはリンク先)をファイルに保存してください。
 ZIPファイルを解凍するとエクセルファイル(マクロ機能付き)が入っています。

【出力の例】

[学校、学級グラフ例.pdf](#) PDF
[個人データ例.pdf](#) PDF
[質問ごとのグラフ例.pdf](#) PDF

集計用 Excel ファイルはここを右クリックして保存する。

2

「学習に関するアンケート」の分析と活用

集計用 Excel ファイルは、各設問の回答について、以下のように数値を対応させて、平均値の計算やグラフの表示などができるようになっています。

回答	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
得点	4点	3点	2点	1点

分析は、学年や学級あるいは児童生徒一人一人の数値の平均値について、その大きさや、学年全体と学級全体の平均値との関係に着目します。また、「欲求・動機」「学習行動」「認知・感情」の各プロセスの要素の平均値のグラフ（レーダーチャート）のバランスから分析する方法もあります。

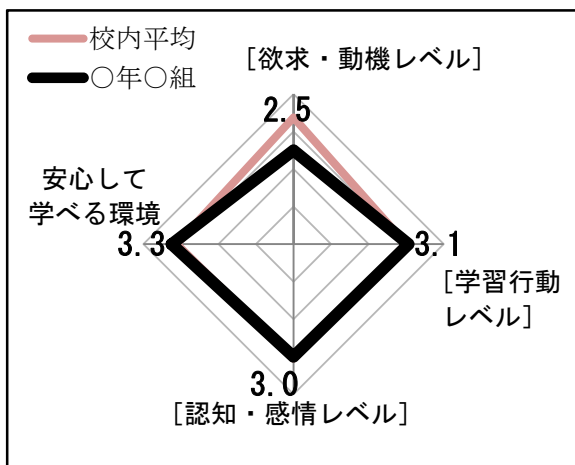
アンケートを2回行った場合には、その平均値の変化から、児童生徒の学ぶ意欲の変容を分析する必要があるでしょう。

アンケートや学級の様子を観察及び児童生徒との面談を通して、学年や学級あるいは児童生徒一人一人の意欲の実態を把握し、数値の低い要素に対して、授業や様々な教育活動等で意図的に働きかけることが有効です。

以下に、データ分析の例を示します。

【例1】学級と校内平均の比較の分析

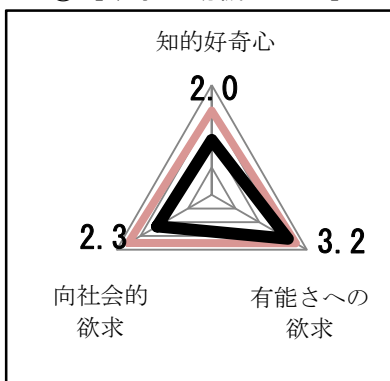
① [安心して学べる環境と3つのプロセス]



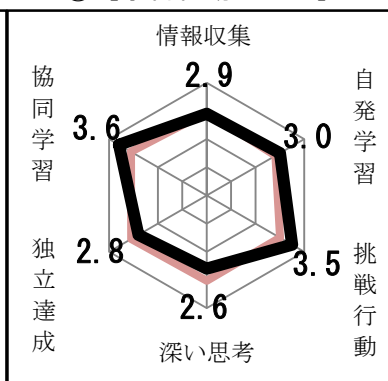
〔レーダーチャートの見方〕

- 平均値が表示される。満点は4点。
- 4つのレーダーチャートが表示される。
- ①は、安心して学べる環境と各プロセスの平均値を示している。
- ②～④はそれぞれのプロセスの構成要素の平均値を示している。

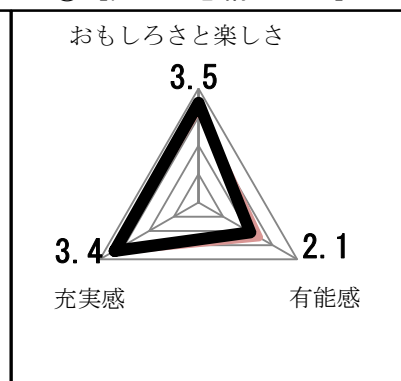
② [欲求・動機レベル]



③ [学習行動レベル]



④ [認知・感情レベル]



【分析の例】

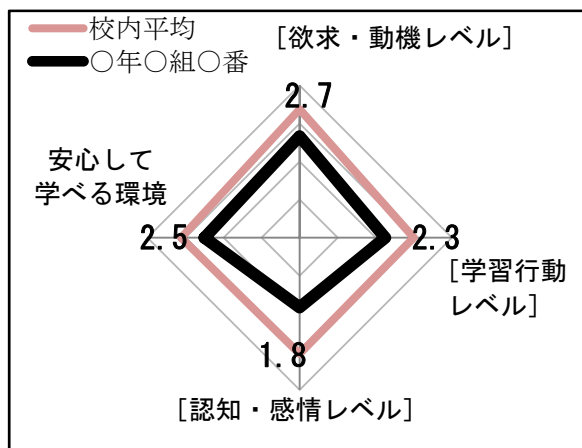
- 「欲求・動機レベル」の平均値が、校内平均と比較して低いことが見てとれる。
- 「欲求・動機レベル」の中でも「知的好奇心」や「向社会的欲求」が低い。
- 「学習行動レベル」の「協同学習」や「挑戦行動」は校内平均より高い。

【解決策の例】

- 学級の様子を観察したり、児童生徒と面談を行ったりするなどして、どのような働きかけが有効なのかを検討する必要がある。

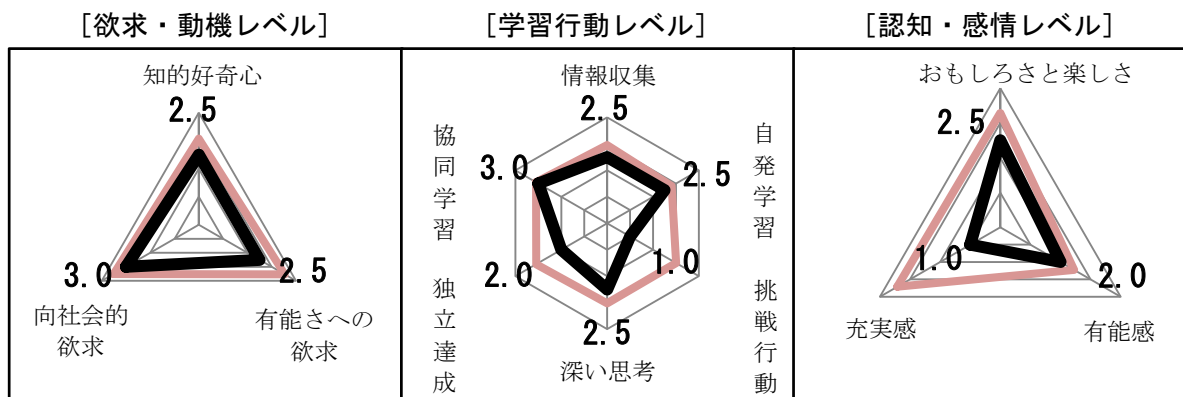
【例2】個人と校内平均の比較の分析

[安心して学べる環境と3つのプロセス]



特に配慮を要する児童生徒

- どの構成要素の数値も低い児童生徒
- 構成要素による差が大きい児童生徒
- 教師の観察とアンケートの結果の違いが大きい児童生徒



【分析の例】

- どのプロセスの平均値も校内平均より低いことが見てとれる。
- 「学習行動レベル」の「挑戦行動」と「認知・感情レベル」の「充実感」に対し、否定的な回答をしている。

【解決策の例】

- 易しい課題から取り組ませ、一つ一つスモールステップで解決させるように支援して、充実感をもたせる。

このような分析に基づいて働きかけを工夫した場合、それが児童生徒に届いたかどうかを確認するために、働きかけた後のアンケート結果をもとに、面接を行うとよいでしょう。その際に、「意欲を高める出来事がありましたか」と尋ねるなどして、児童生徒に回想させるような質問をすると、働きかけの効果が把握できるでしょう。

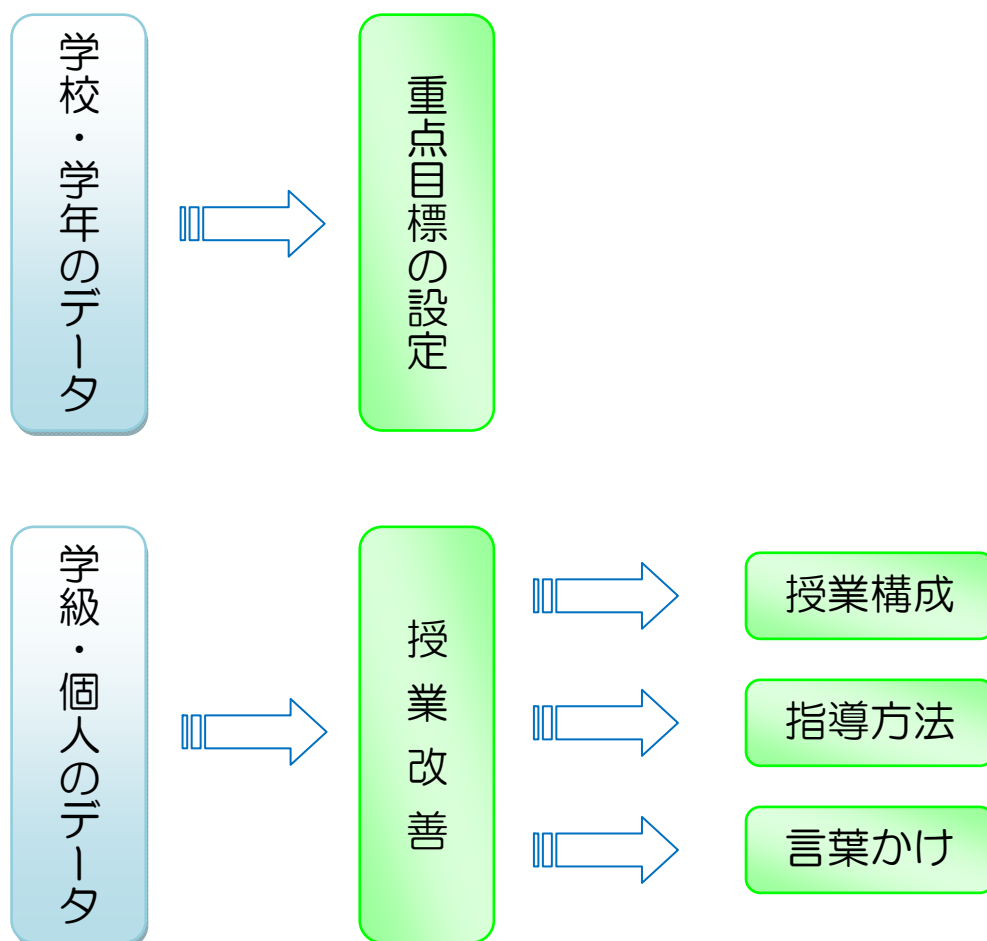
コラム

アンケートの結果には、授業改善のヒントが隠されていると言えます。学級や個人のデータには、授業の構成や指導の方法、言葉かけなどの傾向が影響していると考えられます。そこで、自身の授業の特徴を振り返ることが必要です。

例えば、「挑戦行動」が低いというデータが得られたとき、「基礎的な問題を全員が解決できるように指導しているが、応用問題に取り組むような働きかけが不足しているのではないか」という分析をすることによって、時には応用問題を出したり、習熟度に応じた問題を用意したりするなどの授業改善へとつなげることができます。

小学校では、学級担任が多くの教科を担当しているため、学級に応じた授業づくりの工夫がしやすいと言えますが、教科担任制の中学校、高等学校では、数名の教師が働きかけてもあまり効果は期待できません。校内研修などで、アンケート結果を学校全体で分析して共通理解を図ることで、効果的に働きかけることができます。

さらに、保護者会等で学年や学級の結果を示したり、保護者との面談で個人の結果を伝えたりして、家庭との連携を図ることも考えられます。



3

「学習に関するアンケート」の結果

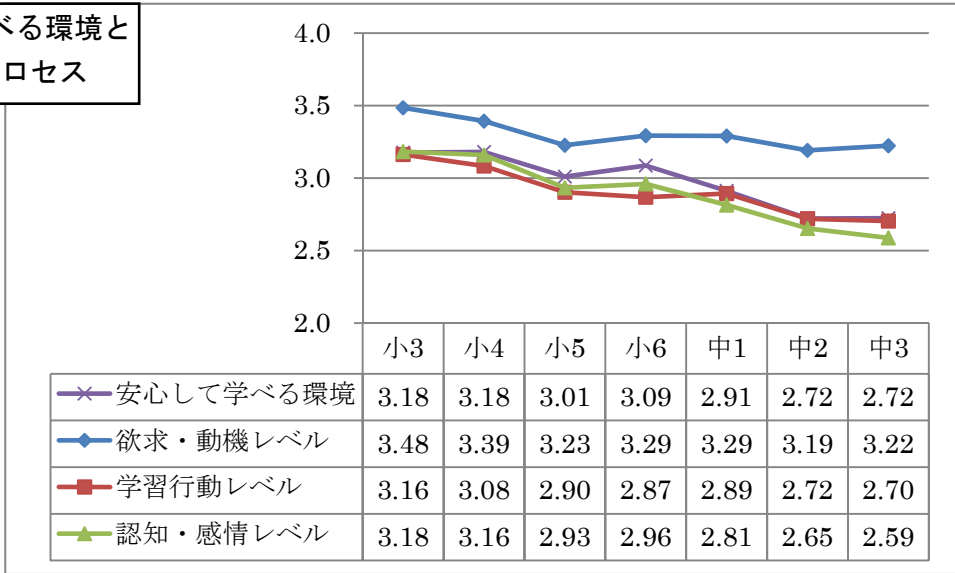
「学習に関するアンケート」について、県内の小中学校で実施したものを学年別に集計し、分析しました。各学校で調査した結果と比較するなどしてください。

- (1) 実施対象校
県内の小学校5校、中学校7校
- (2) 実施期日
平成22年6月～7月の適当な日時を学校が定めて実施
- (3) 有効回答者数

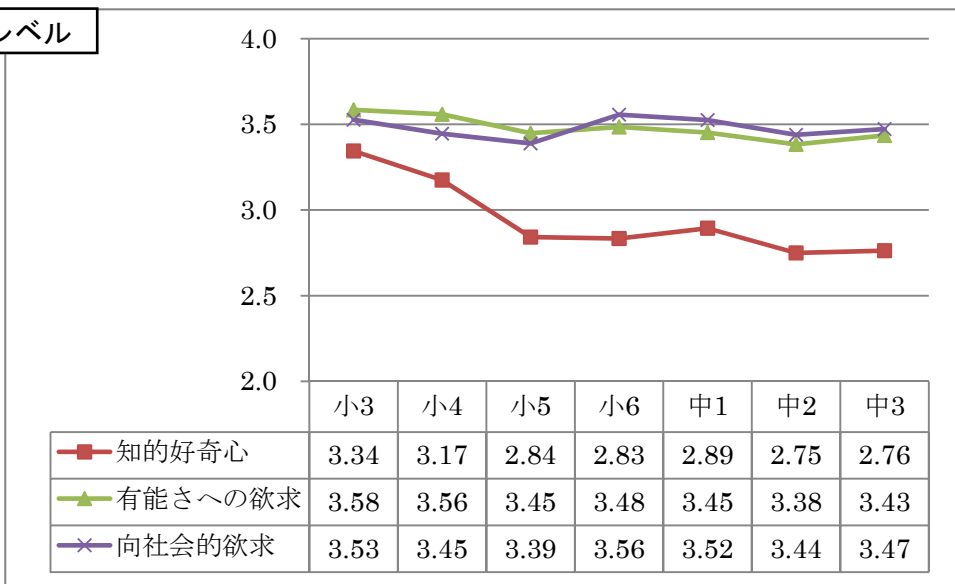
学年	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
回答者数	201	198	223	210	523	533	527

(4) 各プロセス、およびプロセスごとの構成要素の平均値の推移

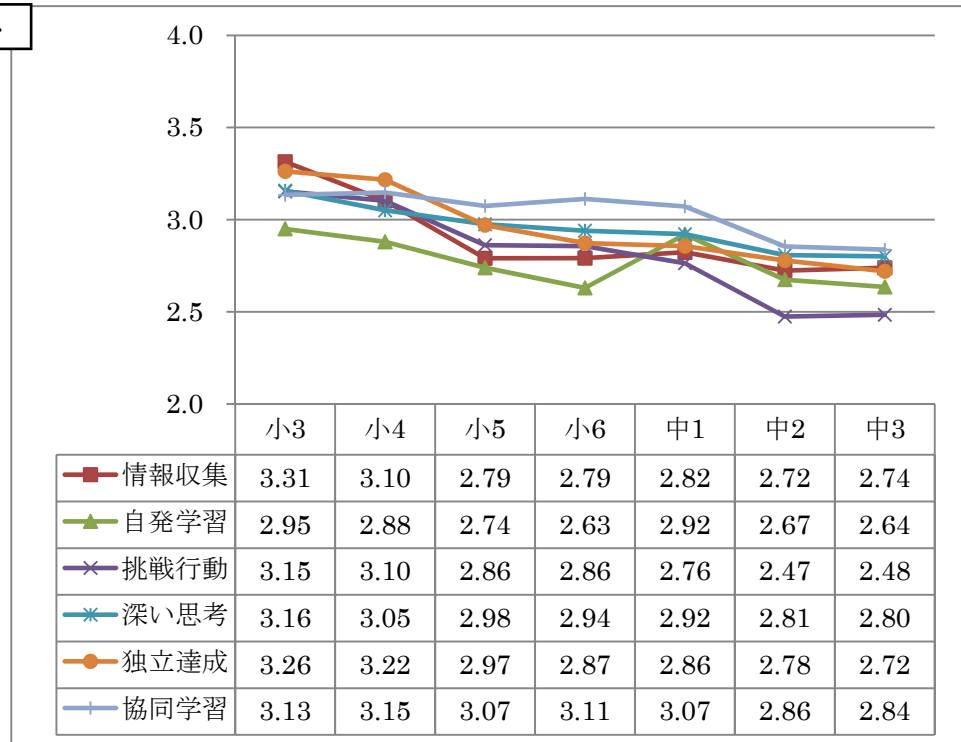
安心して学べる環境と
3つのプロセス



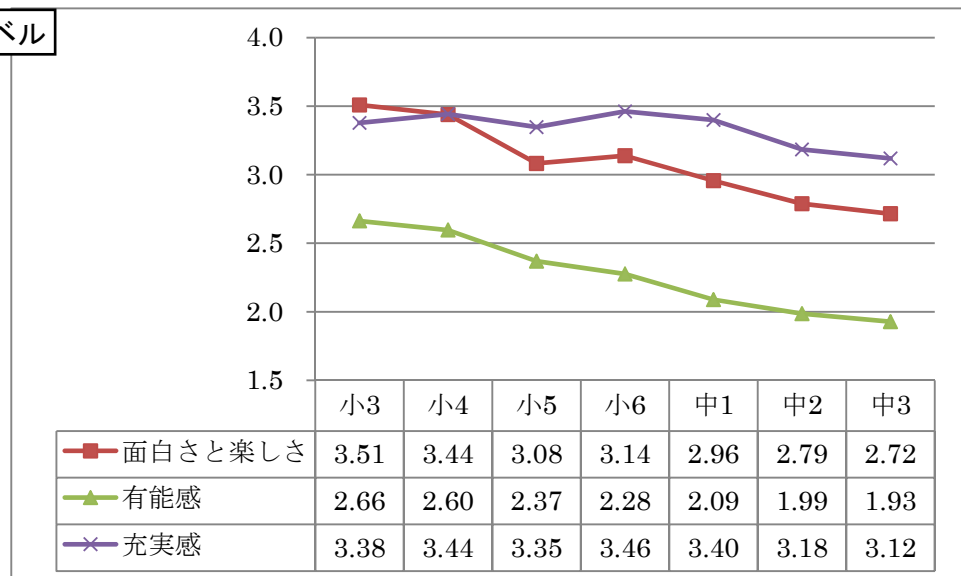
欲求・動機レベル



学習行動レベル



認知・感情レベル



(5) 集計結果の特徴

- 発達にしたがって、ほとんどの構成要素の平均値が減少していく傾向にある。
- 「有能さへの欲求」「向社会的欲求」は全学年とも高い。
- 小学4年から5年にかけての減少幅が大きい項目は、「知的好奇心」「情報収集」「おもしろさと楽しさ」である。
- 中学2、3年の「挑戦行動」の平均値が低い。
- 「有能感」はどの学年も、平均値が最も低い。

第3章

学ぶ意欲をはぐくむ授業 - 研究協力校の実践 -

研究協力校における、アンケートの結果を踏まえた授業実践を紹介します。

◆研究協力校の実践事例

1	岩舟町立静和小学校	25
	・児童に学習の流れを意識させる	
	事例1 理科4年「1日の気温の変化」	
	・身近な題材を取り扱うなど、課題の設定を工夫する	
	事例2 算数4年「式と計算」	
	・校内研修での取組	
2	さくら市立南小学校	33
	・子どもの興味・関心から学習課題を設定する	
	事例1 総合的な学習の時間3年「いろいろな仕事調べ」	
	・個のよさが生きる言葉かけをする	
	事例2 総合的な学習の時間3年「新聞記事から考えよう」	
	・人間関係に配慮して安心して学べる環境をつくる	
	事例3 学級活動6年「教室からなくそう NGサイン」	
	・学び合いで深い思考を促す	
	事例4 算数6年「順序よく整理して調べよう」	
	・一人一人の子どもを励まして、主体的な行動を促す	
	・思考の跡を残すことで、考えを深める	
	事例5 体育4年「ネット型ゲーム『プレルボール』」	
	・学校行事を通して挑戦すること、努力することの喜びを体験させる	
	事例6 学校行事「持久走大会」	
3	那須塩原市立東那須野中学校	41
	・キャリア教育の充実を通して、自己を見つめさせる	
	事例1 学級活動2年「職業について」	
	・体験を重視して、情報収集能力の向上を目指す	
	事例2 総合的な学習の時間1年「地域に学ぶ」	
	・学習の手順やゴールの姿を示し、進んで取り組ませる	
	事例3 国語1年「本の世界を広げよう」	
	・校内研修の取組	
4	佐野市立西中学校	49
	・学習課題を工夫する	
	事例1 社会3年「模擬裁判をやってみよう」	
	事例2 数学3年「二次方程式の利用」	
	事例3 英語2年「How can we find out?」	
	・相互に学び合う場を多く設定する	
	事例4 音楽2年「混声合唱の豊かな響きを味わおう」	
	・学習状況について情報を共有する	
	・学習習慣を確立する	
	・学びたくなる環境を整備する	
	・家庭学習の習慣化を支援する	
	・学習に関するアンケートを定期的実施する	

◆取組のポイント

*以下、学校名を静和小と表記

- 全教員が学ぶ意欲のプロセスに着目し、アンケートの結果を生かした授業づくりに取り組んだ。
- 全教員が授業を年間1回以上公開し、お互いに参観し合った。(要請訪問とは別に実施)
- 「学ぶ意欲をはぐくむための授業づくり」をテーマに夏季休業中にワークショップ型校内研修を実施するなど、教員が学び合う場を設定した。
- それぞれの教員が学ぶ意欲の向上に関する自己の取組をまとめ、冊子にすることで、学ぶ意欲を高める手だてについて共有化した。

◆学校課題との関連

研究主題：自分の思いや考えを生き生きと表現できる子どもの育成
 ～各教科等における言語活動の充実を目指して～
 目指す児童像

- ・自分の感じたことや考えたことを分かりやすく表現する子ども
- ・生活経験や資料などを基にし、根拠をもって自分の考えをもてる子ども
- ・学んだことを生かしながら、自ら進んで課題解決に取り組む子ども

静和小では、お互いの立場や思いを尊重して、自分の考えをしっかりと伝える力が、子どもたちの主体的な学びや実生活に生きて働く力と考え、研究主題を設定しました。学ぶ意欲の構成要素に働きかけた授業を展開することは、本校の目指す児童像の実現につながるものと考えられます。

◆第1回アンケート結果及び実践の方向性

4年生のあるクラスの結果

安心して学べる環境	知的好奇心	有能さへの欲求	向社会的欲求	おもしろさと楽しさ	有能感	充実感
3.36	3.70	3.93	3.89	3.82	3.05	3.68

情報収集	自発学習	挑戦行動	深い思考	独立達成	協同学習
3.66	3.25	3.73	3.32	3.57	3.50

この学級は、すべての構成要素で非常に高い数値を示していますが、有能感が低めでした。このため担任のA教諭は、有能感を高めるために様々な構成要素に働きかけて成功体験を積み重ねること、また構成要素によって数値の差が大きい児童への働きかけを工夫することを意識して、学級経営と授業づくりに取り組みました。

二つの研究授業における学級全体及び個への働きかけと、授業研究会の成果を紹介します。

(1) A教諭の取組

児童に学習の流れを意識させる

事例1 理科 4年 「1日の気温の変化」

ねらい	1日の気温の変化の仕方は、天気によって違いがあると考えることができる。
本時の概要	1 グループごとに1日の気温の変化の表をグラフにする。 (1人で1日担当し、グループで4日分作成) 2 4枚のグラフを比較し、気付いたことをまとめる。 3 各自がまとめた気付いたことについて、グループで話し合い、気温の変化の仕方は何によって変化するのかを考える。

振り返りカードの工夫 (有能さへの欲求、知的好奇心、充実感) *

* () 内の構成要素に働きかけることを表しています。以下同様。

使用した振り返りカードには、次のような特徴があります。

- 各時間の学習のねらいが示してあり、児童は見通しをもって学習活動に取り組むことができる。
- めあてに対する自分の頑張りや達成度、授業における気付きを確認することができる。

理科振り返りカード **1日の気温の変化** 4年2組 (お)

☆ 1日の気温の変化の謎をさくろう! ☆

☺☺☺ とてもよくできた ☺☺☺ だいたいできた ☺☺☺ もう少しできそうだ

時間	めあて	振り返り	感想
1	①百葉箱(ひやくようばこ)のしくみがわかりましたか。 ②ぼう温度計を見て、気温を読み取ることができましたか。	☺☺☺ ☺☺☺ ☺☺☺	百葉箱は風が入ってきたり空気も入っていることがわかった。百葉箱の中は温度計がありすごい仕組みがある。ビックリした。もっと百葉箱を調べたい。
2	①ぼう温度計を見て、気温を記録できましたか。 ②空に雲があるときの、晴れとくもりのちがいがわかりましたか。	☺☺☺ ☺☺☺ ☺☺☺	雲が全然ないときは晴れと言う名前とわかった。晴れで空をとって写真を撮る。見たらさきう見たかったけどよく見たら空だった。自分で空を調べたい。
3	①測定表からグラフを作ることができましたか。 ②「1日の気温の変化」のなぞをたどることができましたか。	☺☺☺ ☺☺☺ ☺☺☺	1日の気温の変化のなぞは、1日の気温の変化は天気によってちがうことがわかった。1〜6はみんなはやくもり雨が降った。気温のなぞがとけてよかった。
4	①記録温度計のしくみがわかりましたか。	☺☺☺ ☺☺☺ ☺☺☺	百葉箱の記録温度計は朝夜まわはかっていることがわかってよ。記録温度計は5月のときが見えなかった。
5	①この単元で学習したことをまとめた新聞を作ることができましたか。	☺☺☺ ☺☺☺ ☺☺☺	新聞を作って記事がまとまっていた。よかった。またさつかくい。なぞをばいけんと新聞を作りたい。

ゴール: 1日の気温の変化の謎を解くことができる!!

他の児童のカードには、5時間目の新聞作りについて、次のような記述が見られました。

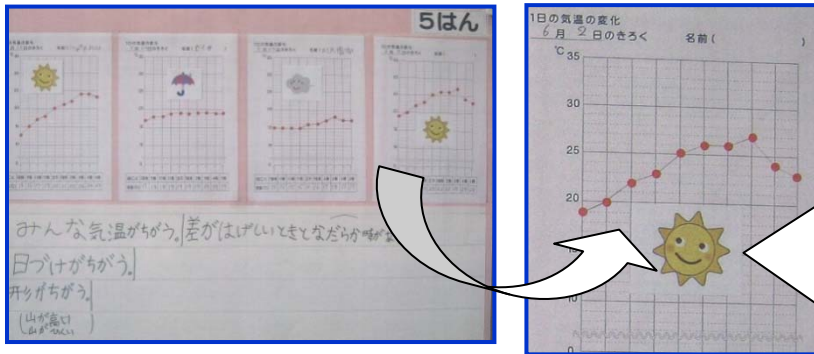
- 新聞もうまくできてうれしかったです。できたら冬の気温も調べていきたいです。
- 新聞完成! 「おめでとう」って自分に言いたいな。ふしぎがすべてとけたよ。

有能感

知的好奇心

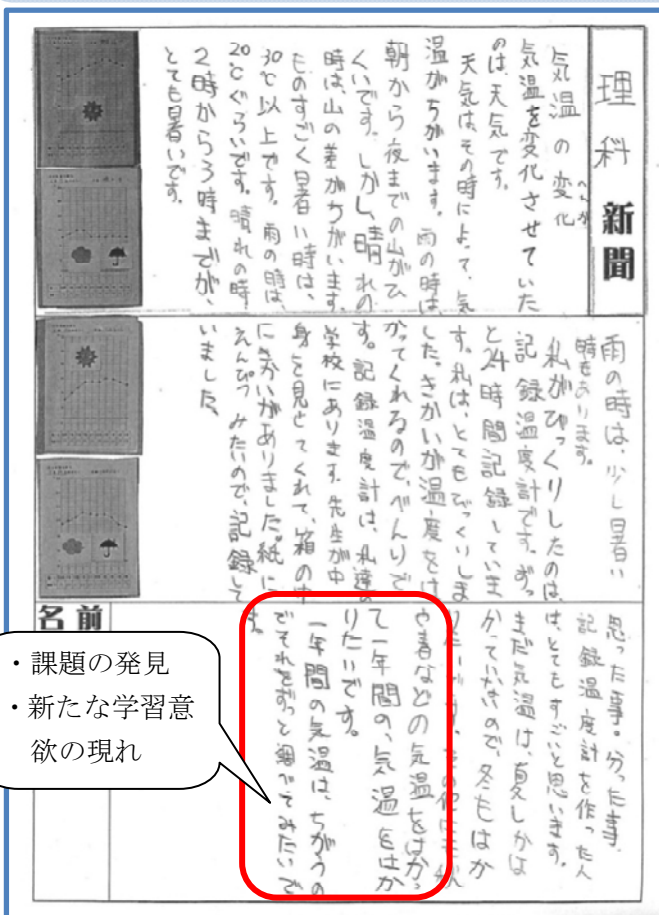
課題提示の順序と方法の工夫（知的好奇心、おもしろさ・楽しさ）

- 1 気温の変化のデータをとらせる。（事前）
- 2 データを基にして異なる形状のグラフをかかせ、「気温の変化の謎を探ろう」と働きかけた。（各グループで、4枚のグラフから考えさせる）



授業の終盤に、1か月の天気の一覧表を配布し、各自が書いたグラフの天気を確かめさせました。そして、「お天気シール」を添付させると、天気とグラフの形状の関連が確認でき、「なるほど」の声があがりました。

新聞づくりによる学習のまとめ（充実感、知的好奇心）



- ・課題の発見
- ・新たな学習意欲の現れ

A教諭は、前時までのワークシート、ノート、振り返りカードなどを参考にして、新聞を作らせ、学習の成果を確認させました。

分かったことや、驚いたこと、新たに調べたいことなどを記述する子どもが多く、学ぶことが楽しいと感じていることが読み取れます。

【一人で考えをまとめている様子】



教師の振り返り

一人一人に別の日のデータを与えたことで、意欲が高まりました。グループ学習の場面では、進行、記録、発表などの役割を分担させ、主体的に参加できるようにしました。学ぶおもしろさを子どもに実感させるには、子どもが疑問をもつような課題の与え方や発問を工夫することが大切だと分かりました。

身近な題材を取り扱うなど、課題の設定を工夫する


事例2 算数 4年 「式と計算」

ねらい	買物の場面を考え、問題を作ったり、四則混合の式や()を使った式に表したり、式から場面を想像したりすることができる。
本時の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 ねらいの提示「問題作りをしよう」(お店のメニュー表を提示) 2 教師が提示した問題から、立式の練習をする。〔一斉・個人〕 3 各自が、問題を作る。〔個人〕 <ul style="list-style-type: none"> ・買物の場面をイメージし、ホワイトボードに絵カードと数字を組み合わせながら、式を考える。 ・ワークシートに問題文を書く。 4 グループで、問題を出し合い解き合う。〔グループ〕 5 教師が意図的に選んだ問題を解く。〔一斉・個人〕 6 発展的な問題として、教師が提示した式(子どもからは出てこない型)から問題文を考える。 7 振り返りカードを書く。


教材教具の工夫(知的好奇心、自発学習)

導入では、買い物の場面を取り上げ、下図のようなメニュー表を提示し、商品の絵カードを配付しました。


ハンバーガーショップ メニュー表




1000円




120円
アイス



200円
ハンバーガー



150円
スープ



180円
ポテト

〔具体物を活用したことの効果〕

- ・買い物の場面を想像できた。
- ・文章問題を作るときに、絵カードを使った式に表してから問題文を考えると、作りやすい。
- ・友達が作った問題を解くときに、ホワイトボード上で、絵カードを動かしながら考えられるので立式しやすい。

〔子どもが立てた式の例〕

$$\begin{aligned}
 (\text{アイス} + \text{ポテト}) \times 3 &= (120 + 180) \times 3 \\
 &= 300 \times 3 \\
 &= 900
 \end{aligned}$$

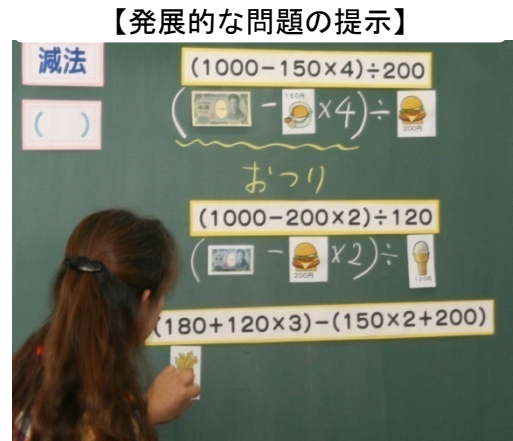
問題

- ・120円のアイスと180円のポテトを3つずつ買います。代金はいくらでしょうか。

発展的な問題の提示（挑戦行動）

【発展的な問題を取り上げた活動の効果】

- ・友達の問題よりも、複雑であったことにより、「難しい問題に挑戦する」という気持ちが高まった。
- ・式の意味を問うことにより、新鮮さが感じられたようだ。
- ・式には意味があることと、様々な出題が可能であることに子どもが気付いた。



【本時の子どもの振り返りから】

- ・問題を作ったり、友達が作った問題を解いたりすることが楽しかった。
- ・〇〇さんの問題は、たし算、かけ算、ひき算があつて、よい問題だと思いました。
- ・先生の出してくれた難しい問題がおもしろくて、勉強になりました。

【第1回と第2回アンケートの比較】

要素	安心して学べる環境	知的好奇心	挑戦行動	有能感
第1回	3.36	3.70	3.73	3.05
第2回	3.88	3.86	3.98	3.66

安心して学べる環境のもと、知的好奇心や挑戦行動を中心に働きかけたところ、数値に伸びが見られました。日々の授業の中で、一人一人の子どもの発言を受け止め、ほめたり励ましたりしながら指導した結果、有能感も高まっています。

アンケート結果から気になる児童への支援

第1回のアンケート結果から、要素による差が大きい児童に視点を当て、事例2の算数の授業を通して意図的な働きかけを工夫しました。

	Kさん	Mさん
普段の様子	・気持ちにむらがあり、やる気になるとどんどん取り組むが、調子がでないときははかどらない。	・学習面ではあきらめが早く、大きな声で「分からない」と叫ぶことが多い。
授業での関わり	・問題作りでは、「それでいいんだよ」など、励ましの声をかけた。 ・問題を解く活動では、グループ内で相談し合うことで、深い思考へと向かわせ、問題を解く楽しさを味わわせた。	・教師からの声かけを多くし、集中して取り組ませた。 ・問題作りは苦勞することが予想されるため、具体物を使って立式することにより、問題文につなげた。

【Kさんの単元全体の振り返り】

いろいろな式や計算をして、とても楽しかったです。それは、自分で問題を作ったり友達の問題を協力して解いたりしたからです。いろいろな計算をしたので、どんな問題でも解ける気がします。私は、算数が好きなので、もっと難しい問題にチャレンジしたいと思います。

振り返りの記述から Kさんは協同学習のよさや学ぶ楽しさを実感していることが分かります。「もっと難しい問題にチャレンジしたい」とは、学ぶ意欲の構成要素の「挑戦行動」であり、新たな学ぶ意欲に繋がったと言えます。

【Mさんの単元全体の振り返り】

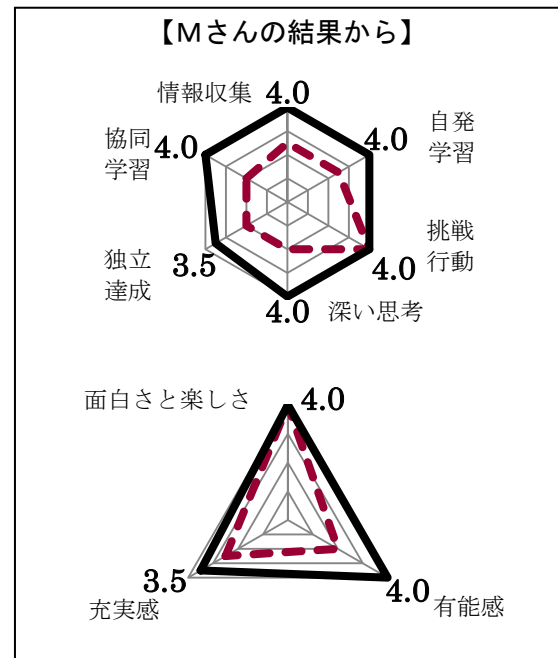
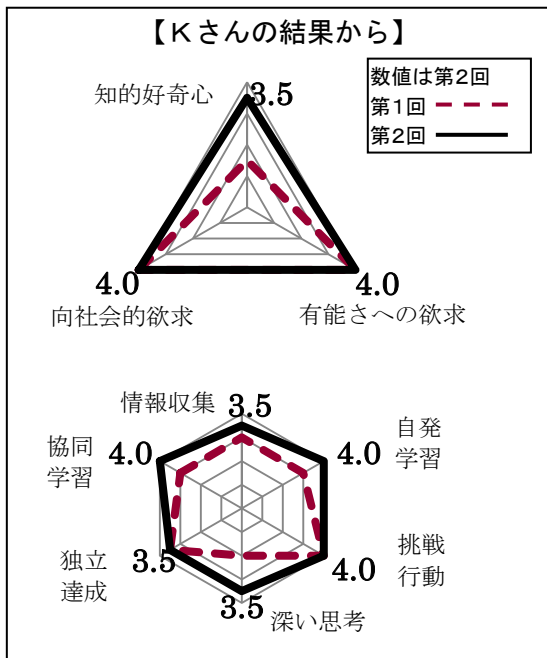
計算が早くできるようになって、一から÷まで完ぺきにできました。

2けたの引き算もあるので、がんばって完ぺきにしたいと思います。「おまかせ名人」*にはなっていないので、「おまかせ名人」になりたいと思います。

*は、本単元のめあて「計算おまかせ名人になろう」からきています。

Mさんは、算数に対して苦手意識をもっていました。単元を通して、計算が正確にできるようになったことで、「有能感」が得られたと考えられます。

第2回のアンケート結果は、次のようになりました。二人ともほとんどの要素で数値が伸び、バランスもよくなっていることが分かります。



教師の振り返り

- ・視点を当てた二人の子どもを重点的に見たことにより、その二人は安心して学んでいました。
- ・Kさんは、導入での買い物の場面に興味をもてたので、時々励ます程度で、自分から学習を進めることができました。
- ・普段のMさんは、大きな声で、「先生、先生。」と呼び、「分かんないよ。」と言っていました。本時では、何度かそばに行って指導したため、大きな声を一度も出さずに、問題作りに取り組みました。問題の解決策が分からないMさんは、これまではいつも寂しい思いをしていたのだと感じました。

(2) 校内研修での取組

事例2の授業研究会では、参観した先生方からの気付きとして、子どものつぶやきを受け止めつつテンポよく進めるすばらしさ、課題の提示の工夫による知的好奇心の高まり、発展的な問題の準備による挑戦行動の高まりなどが出されました。課題についても検討され、解決策を考えていきました。

下の表は、授業研究会で出された付箋を学ぶ意欲の視点でグルーピングしたものです。

授業の流れ	授業研究会で出された意見
<p>1 ねらいの提示 (ハンバーガーショップのメニュー表を提示) 「問題作りをしよう」</p> <p>2 教師が提示した問題から、立式をする練習をする。 〔一斉・個人〕</p>	<div data-bbox="608 618 986 913" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>知的好奇心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な教材に興味をもって取り組んでいた。 ・具体物が有効で、絵カードと数字を組み合わせて式を作るのが分かりやすかった。 </div> <div data-bbox="999 618 1390 913" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>安心して学べる環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Kさんが自信なさそうに首をかしげていた。先生が「いいんだよ。これで。」と声をかけていたので、式と答えが書けた。 </div>
<p>3 各自問題作りをする。 〔個人〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買物の場面をイメージし、ホワイトボードに絵カードと数字を組み合わせながら、式を考える。 ・ワークシートに問題文を書く。 	<div data-bbox="608 1016 938 1496" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>有能感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1000円札の使い方について、質問すると、「おつり。」と答えた。「さすが！頼りになるね。任せたよ。」との声かけに嬉しそうだった。 ・「みんなが作った問題は、宿題にしたり、朝の自習にしたりして解いてもらおうよ。」の言葉に「うれしい。」という声上がる。 </div> <div data-bbox="959 949 1398 1137" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>有能さへの欲求</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の作り方の説明がポイントを押さえていたので、学習の見通しをもって、取り組めた。 </div>
<p>4 グループで、問題を出し合い解き合う。〔グループ〕</p>	<div data-bbox="959 1294 1390 1482" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自発学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1問目は先生が絵カードで説明して立式、2問目は1問目に習って自分で立式することができた。 </div>
<p>5 教師が意図的に選んだ問題を解く。〔一斉・個人〕</p> <p>6 応用問題として、教師が提示した式（子どもからは出てこない型）から問題文を考える。</p>	<div data-bbox="608 1585 1398 1787" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>挑戦行動 おもしろさ・楽しさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生が作成した応用問題に対して「解いてやる！」と意欲を見せた。 ・式から問題を考えるという角度を変えた問題は、さらに意欲を刺激していたように思う。 </div>
<p>7 振り返りカードを書く。</p>	<div data-bbox="608 1868 1390 2016" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新たな学ぶ意欲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードには、「もっと解きたい」「応用問題が楽しかった」などあり、意欲が高まっていた。 </div>

教師の意欲が高まる校内研修

夏休みに子どもたちの学ぶ意欲を高めるために、ワークショップ型の校内研修を行いました。

それぞれの教員が、学ぶ意欲のプロセスモデルを参考に、授業で実践していることや考えられるアイデアを付箋に書き、紹介し合いました（p62 参照）。この研修をきっかけに、個々の教師が学ぶ意欲をはぐくむ要素に着目し、日々の授業に取り組むようになりました。その結果、事例2の授業研究会では、学ぶ意欲の視点からの意見が数多く出されました（p64 参照）。

【学ぶ意欲の視点からの協議の様子】



授業研究会後の先生方の声

- ・学ぶ意欲が育つプロセスを知って、いろいろな角度から授業を観ることができるようになりました。また、子どもの立場で参観し、その場その場で、意欲の高まりの度合いを考えるようになりました。
- ・授業を参観する際は、子どもの表情が変わる瞬間を見て、その理由を考えるようになりました。
- ・自分では気が付かなかった視点での意見がいくつか出されていて、参考になりました。今後、授業をする上で生かしていきたいと思います。
- ・校内研修を実施することにより、教員の学ぶ意欲も高まっていると思います。

研究の成果を実感する冊子

12月には、学ぶ意欲について取り組んできたことを、各教師がレポートにまとめ、読み合いをして指導法の共有化を図りました。

第1回アンケートの結果、数値が低めであった構成要素に対して、各自がどのような働きかけをしたのかについて発表し合うことで、成果と課題が意識されました。

自分の学級以外の授業に出る場合には、その学級のアンケート結果に目を通し、学級担任と重点目標を共有して授業をすると、学ぶ意欲を高めるのに効果的です。

【教師のレポート】

◎教科・教材名 【 国語科 人物の考え方や生き方をとらえよう わらぐつの中の神様 】
 ◎働きかけた要素 【 協働学習 安心して学ぶ環境 両向き対峙しき 】

1 授業における働きかけの工夫

単元の中でグループでの話し合い活動を多く取り入れ、まず協働学習に慣れるようにした。慣れることで緊張せずに自分の意見を出せるようにしたいと考えた。自分の意見に自信がないと思われる児童には、個別に「これ、すごくいいね！発表してみた？、と声をかけた。また、人物の人物を読み取り話し合う際に、「○○の正体をさぐろう！」と買うなど、関心や楽しさを育てるような投げかけをした。

2 子どもの様子

グループ活動は慣れていくにつれて、徐々に活発な話し合いになっていった。協力（意見を、友達の話を真剣に聞く）も自然とできるようになった。しかし、慣れたからといって、自分の意見を“進んで”言うということはいずれにできておらず、中心となる児童で進めてしまう様子が見られた。特に自信がない児童は、周りの友達に聞かれると発表できるが、笑顔で安心して話しているという様子ではなかった。

人物の人物を話し合うことに関しては、例えば「ロマンチスト」などのいろいろな人物を想像することで、時々笑いがおこるなど面白く、楽しみながらできたようだった。

3 成果と課題

経験回数を増やして徐々に自発的に協力できるようになれればいいと思ったが、国語だけでなく、児童が自信を得るような成功体験や協働学習の面白さを感じられるような経験をさせたいと変わらないのではないかと考えた。安心して学ぶためには、グループの左人が話しやすいかどうかは重要なようで、どんなグループになってもある程度は安心して自分を出せる雰囲気や人間関係を構築することが重要だと思った。また、言葉の言い出しひとつで子どものとらえ方・モチベーションが変わると感じた。

4 感想（授業や本研究に関することについてお書きください）

学ぶ意欲を高めるために、いろいろな要素・原因があると知ることができて本当に良かった。今まで無意識にやっていたことも意識してみると、とても意味があったように感じた。データをもとに、児童にピンポイントにも働きかけることができるのは、意欲がなく、早くその児童の能力を伸ばせることにつながるのではないかと思う。今回だけでなく、定期的に振り返ることができればいいと思った。

◆取組のポイント

*以下、学校名を南小と表記

- アンケート結果を分析し、各学級で重点的に働きかける要素を決めて実践した。
- 教師が受容的に子どもと接するとともに、子ども同士の良好な人間関係づくりを支援して、安心して学べる環境をつくった。
- 日々の様々な教育活動の中で、一人一人の意欲の状態に応じた指導を行った。
- 家庭との連携を図って、学ぶ意欲を喚起した。

◆学校課題との関連

- 研究主題：わかる・できる・楽しい授業をめざして
～自ら考え、伝え合い、学び合う活動の充実～
- 研究の重点
- 目指す授業実現のために
 - ・伝え合い、学び合う活動を充実するための指導法の工夫や授業改善の手法
 - 授業を支える手立て
 - ・伝え合う力を高めるための日常場面での指導の工夫
 - ・意欲向上のための学習環境の工夫
 - ・児童の実態把握や保護者への啓発
 - ・Q-Uテスト年間2回実施

南小の学校課題と、学ぶ意欲の「協同学習」や「深い思考」、「安心して学べる環境」とは関わりが深く、学ぶ意欲の構成要素に働きかけることは、学校課題解決の一助になると考えられます。

◆第1回アンケート結果及び実践の方向性

	安心して学べる環境	知的好奇心	有能さへの欲求	向社会的欲求	おもしろさと楽しさ	有能感	充実感
3年B組	3.35	3.42	3.60	3.54	3.64	2.72	3.74
4年D組	3.05	2.83	3.20	2.77	3.22	2.28	3.33
6年C組	3.10	3.04	3.44	3.46	3.35	2.46	3.42

	情報収集	自発学習	挑戦行動	深い思考	独立達成	協同学習
3年B組	3.34	3.26	3.22	3.30	3.38	3.20
4年D組	2.85	2.33	2.72	2.67	2.82	3.17
6年C組	2.73	2.85	3.06	3.10	2.73	3.15

観察から感じていた課題やアンケートの結果を基に、学級ごとに重点的に働きかける要素を決めて、授業、学校行事、朝の会・帰りの会などの様々な教育活動の中で、学級担任が働きかけを工夫しました。第2回のアンケートで複数の項目に上昇が見られた学級の中から、3人の教諭の取組を紹介します。

(1) B教諭の取組

子どもの興味・関心から学習課題を設定する

事例1 総合的な学習の時間 3年 「いろいろな仕事調べ」

社会科「人びとの仕事とわたしの暮らし ～ものをつくるしごと～」で、市内を巡る活動をしたとき、子どもたちは、バスの中から見えた様々な職場で働く人々に関心をもちました。そこで、B教諭は「もっといろいろな仕事があるかもしれないね。」と投げかけ、「いろいろな仕事調べ」というテーマで総合的な学習の時間につなげました。

調べることの楽しさを体験させる（知的好奇心、情報収集）

総合的な学習が始まったばかりの3年生に対して、図書による調べ方や、インタビューの仕方などを指導するとともに、「自分が知らなかったことを調べていくのは楽しいことである」ということを伝えました。

このように、学習する過程で子どもが興味を示したことを基に、次の課題を設定したり、さらに調べさせたり、他教科の学習と関連付けたりすることは、子どもの知的好奇心を高めることにつながると考えられます。

1時間ごとの学びを整理させる（おもしろさ・楽しさ）

B教諭は、総合的な学習の時間では、毎時間の学びを見事に意識させることが大切であると考えています。そこで、毎時間の授業の終わりには、「きょうのなるほど」のコーナーに、学習を通して分かったことを書かせています。自分の学習内容を振り返ることで、分かることや知ることへの喜びを味わい、自分の頑張りに気付いたり、新たな疑問をもったりすることができます。

スーパーマーケット

○調べたこと○

【レジの仕事】

レジのところまで買いたいものを持っていくと係りの人がねだんの計算をしてくれます。といっても、ラベルをきかいてらせば、すぐにいくら買ったかがわかるしくみになっています。

【売り場ではたらく人】 <中略>

！きょうのなるほど！

スーパーマーケットでは、ならべ方やいろいろとくふうしていてすごい！！

バーコードもついていてべんりていいことがわかった。

話し合いの内容を文字化して、思考を深める（深い思考、有能感）

【話し合いの様子】



【話し合いにホワイトボードを活用したことの効果】

- ・発言のキーワードを書くことで、意見の共通点、相違点などをとらえることができる。
- ・出された意見を見ながら練り上げができる。
- ・思考する言葉を共有でき、考えを深めることにつながる。

個のよさが生きる言葉かけをする

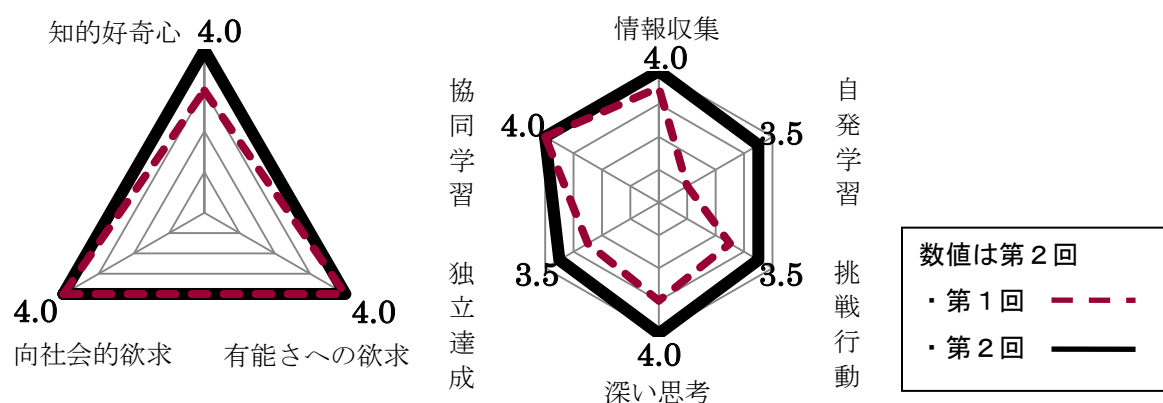
事例2 総合的な学習の時間 3年 「新聞記事から考えよう」

意図的な授業の計画と言葉かけ（自発学習）

Nさんは、じっくり考えたり話し合ったりすることが好きなタイプです。第1回の結果から、他の項目に比べ、「自発学習」の数値が低い傾向にあることが分かりました。

そこで、新聞記事を用いた授業では、Nさんの発言や書き込み等をほめて、学級に広める機会をつくりました。その後、自分から進んで学習に取り組むNさんの姿が見られるようになりました。自分の考えを発表し認められる機会を得たことが、「自発学習」はもちろん、学習行動が全般の伸びに影響しているのではないかと考えられます。

【Nさんの2回のアンケートの比較】



アンケートの結果などを基に、一人一人の児童の傾向を把握した上で、その子のよさを伸ばそうと、意図的に言葉かけをしました。

言葉かけの例

「目の付け所がちがうね」「そういう角度から考えられるんだね」
「一つのことをいろいろな角度から見られてすごいね」

これまで述べてきたように学習課題を工夫したり、意図的に言葉かけを行ったり、学びを振り返らせたりすることで、数値の伸びが見られました。

要素	知的好奇心	情報収集	挑戦行動	深い思考
第1回	3.42	3.34	3.22	3.30
第2回	3.68	3.58	3.62	3.48

教師の振り返り

- ・学ぶ意欲をはぐくむ働きかけにもいろいろあることが分かりました。
- ・アンケートを実施すると、自分の授業の展開や言葉かけの傾向が分かるので、指導の改善に役立てることができました。

(2) C教諭の取組

C教諭は以前から、学ぶ意欲を育て、学力の向上を図るには、学級経営が基盤となると考えていました。昨年度の4月当初は、友達の発言を嘲笑する雰囲気学級にあったため、子ども達は、自分の考えを言うことを嫌がるようになりました。そこで、次のような目標を設定し、子ども達に繰り返し話をして、安心して過ごせる学級づくりを目指しました。

○だれもが、気持よく過ごせるクラスにしよう

- ・人を責めない
- ・自分の気持ちを伝える
- ・失敗や間違いは次につながる→間違いに気付いて直すことが大切

目標には、相手を大切にするとともに自分自身も大切にしてほしいという教諭の願いが表れています。そこで、Q-Uテストとソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウンターの手法を取り入れて、「安心して学べる環境づくり」で大切な人間関係づくりにあたりました。

人間関係に配慮して安心して学べる環境をつくる

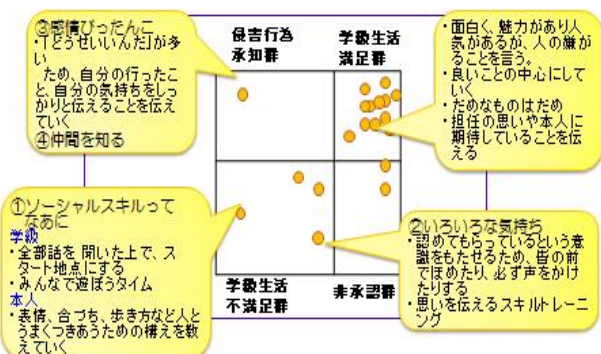
事例3 学級活動 6年 「教室からなくそうNGサイン」

題材のねらい	失敗を責めると逆効果になることに気づき、失敗した人を励ます方法を考え日常で試す。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 NGのサインを確認する。 2 一生懸命やったのに失敗した時の気持ちを考える。 3 失敗したときに、言われたりされたくないことを考える。 4 失敗した人が元気ややる気を出す方法を考える。 5 本時の学習を振り返る。

Q-Uテストを活用した学級経営（安心して学べる環境づくり）

C教諭は、様々な教育活動の中で、どの子どもをどのように育てるかを思い描いて日々の指導にあたっています。右図のように、Q-Uテストの一覧表に、子どもの様子や目指す姿、指導方針などを書き込み、ソーシャルスキルトレーニングやエンカウンターを通して、よりよい人間関係をつくろうと考えました。このように、思いを目に見えるようにしておくことで、一人一人の子どもへのアプローチの仕方が意識され、成果や課題が実感でき、次の指導に生かすこともできます。

Q-Uテストの一覧表(イメージ)



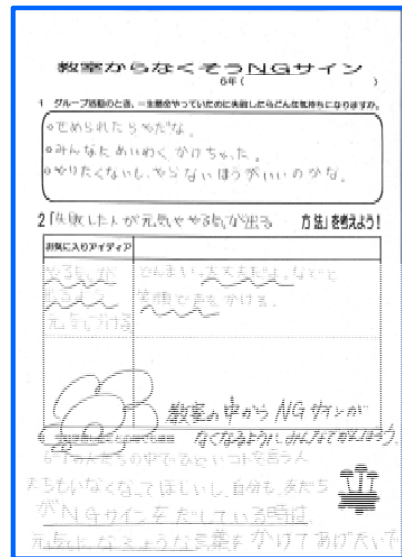
ソーシャルスキルトレーニング、エンカウターの計画

- ①ソーシャルスキルってなあに ②いろいろな気持ち
③感情びったんこ ④仲間を知る etc.

自他を尊重する心を育てる学級活動（安心して学べる環境づくり）

自分たちの問題を真剣に考えて話し合う活動を通して、互いに励まし合いながら学習し、共に成長していこうとする気持ちが芽生えてきます。

事例3の他にも、よりよい人間関係を築くためのプログラムとして「あったか言葉とちくちく言葉」「断り上手」「ほめ上手」「頼み上手」などを行いました。これらの取組が功を奏して、互いを尊重する学級の雰囲気になりました。すると、授業中に「分からない、教えて。」という言葉が出るようになりました。そこで、「教えて 教えてタイム」という学び合いの時間を設けるようにしました。



学び合いで深い思考を促す

事例4 算数6年 「順序よく整理して調べよう」

本時のねらい	順序について、もれや重複がないように調べる方法を考える。
本時の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 本時の学習課題をつかむ。 どのお寿司からたべようかな。～何通りあるか考えよう～ 2 お寿司の食べ方が何通りあるのか考えるときの見通しをもつ。 3 自分の考えた方法で答えを求める。 4 それぞれの解決方法を発表し合う。(グループ→全体) 5 もれや重複がないように調べる方法を確認する。

気軽に学び合う「教えて 教えてタイム」（協同学習、深い思考）

この学級では、個人で考えたり、作業したりする際の話し合い活動を「教えて 教えてタイム」と名付けて、短時間で意見交換をしています。隣の友達とペアで、時には座席が近い友達と数名で気軽に話し合い、学習の進め方を確認したり、友達の考えを参考に自分で解いたりしています。何度も経験するうちに、自分の考えを端的にそして、積極的に話せるようになってきました。

【教えて 教えてタイム】



【グループ活動】

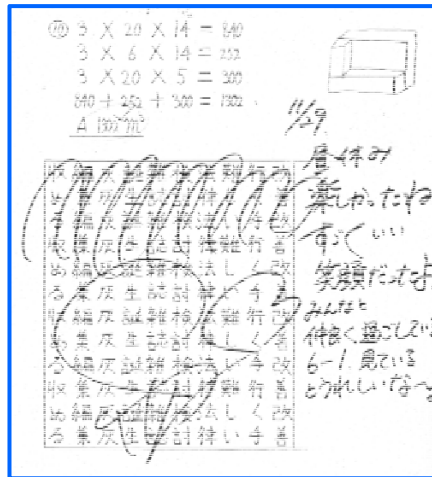


一人一人の子どもを励まして、主体的な行動を促す

自主学习を支援するチャレンジノート（自発学習、有能感）

日常生活の中で、一人一人の子どもの心に届く言葉かけをして、安心感と自信をもたせ、自ら進んで学習できるように支援しています。家庭学習を中心とした自主学习ノートに、学習の内容に対するコメントではなく、教師が観察した子どもの頑張りや成長に対して励ましや賞賛の言葉を書いています。

このことで、「先生は、よいところを見ていてくれる」という安心感が得られて、「もっと頑張ろう」という気持ちが芽生えると考えられます。



【2回のアンケート結果から】

内容	安心して学べる環境	自発学習	深い思考
第1回	3.10	2.85	3.10
第2回	3.34	3.00	3.30

教師の振り返り

学習意欲を高める大きな要因は、安心して学べる環境にあることを確認できました。教師が一人一人を大事にし、望ましい人間関係づくりを支援するような学級経営が、学ぶ意欲を向上させる基盤となると思います。

(3) D教諭の取組

思考の跡を残すことで、考えを深める

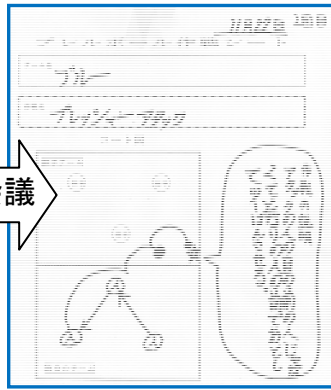
事例5 体育4年 「ネット型ゲーム『プレルボール』」

単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ラリーを続けたり、ボールをつないだりして易しいゲームができるようにする。 ・運動に進んで取り組み、規則を守り仲良く運動したり、勝敗を受け入れたりとできるようにする。 ・規則を工夫したり、ゲームに応じた簡単な作戦を立てたりすることができるようにする。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 チームで準備運動をする。 2 本時のめあてを知る。 こうげきの作戦を考えよう 3 作戦をチームで考える。(作戦名を「〇〇こうげき」と付ける。) 4 練習試合を行う。 5 作戦の修正をする。 6 練習試合を行う。 7 作戦がうまくいったかどうか、またその理由など、成果を発表し合う。

話し合いを重視し、協力して取り組ませる授業（協同学習、深い思考）



作戦会議



【作戦シートを活用した効果】

- ・チーム全員が作戦を確認できる。
- ・記録を基に、作戦変更の話し合いが深まる。
- ・作戦名を付けることで、チームの連帯感が増す。
- ・作戦通りにできたかどうか自己評価できる。

【子どもの振り返り】

- かけ声を入れたので、はじめて勝った。これからも、ムードメーカーを中心に声をかけ合っていきたい。
- 今日は、前よりもパスがうまくなりました。もっとうまくなるようにみんなと練習したい。
- 作戦が成功して、初めて勝つことができました。この次も協力してがんばりたい。

子どもの振り返りからは、チームでたてた作戦がうまくいったときの満足感が大きいこと、話し合ったようにプレーできたかを振り返っていること、次のゲームへの意欲をもっていることが見てとれます。

学校行事を通して挑戦すること、努力することの喜びを体験させる

事例6 学校行事 「持久走大会」

D教諭は、体育主任として、また学級担任として、持久走大会を通して、努力することによる達成感や充実感を味わわせたいと考え、様々な工夫をしました。

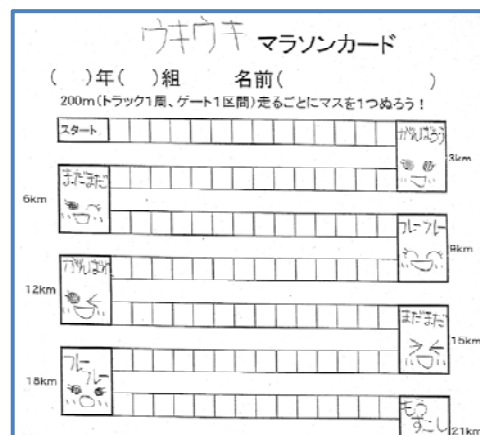
委員会で作成したマラソンカード（有能さへの欲求、向社会的欲求）

運動委員会の児童が作成したマラソンカードを手に、全校児童が、業間（マッスルタイム）に、マラソンの練習をしました。好きなカードを選び、マスを埋めようと、楽しみながら活動しました。運動委員の児童は、みんなのために役立っているという自信をもち、行事をリードすることができました。

【昇降口前に設置したマラソンカードコーナー】



【マラソンカードの一部分】



子どもの頑張りを家庭に伝える学級通信（有能さへの欲求、充実感）

学級への働きかけの一つとして、学級通信を活用して、子どもの頑張りを家庭に伝えました。練習を開始した時期、大会までの中間期、大会後と、時宜をとらえて、その様子を伝えたことで、家庭での励ましや協力が得られ、子どもの意欲も高まったと考えられます。

【学級通信「スタートライン」から】

☆マラソンカード（11月18日第36号より）

来月の持久走大会に向けて、今週の月曜日からは、業間休みにマッスルタイムとしてマラソンコースを走っています。（略）

今年度は運動委員会の子どもがつくった十数種類のマラソンカードから好きなカードを選んで使うシステムにしました。子ども達はお気に入りのカードを手に、休み時間などを使って走っています。

特によく走っているのが、わが4年D組の子ども達で、業間や昼休みに熱心に走っています。中には下校した後、学校に再び来て、校庭を走っている子どももいます。とてもうれしく思います。「継続は力なり」です。（略）頑張っている子ども達を応援していきますよ。

☆がんばった持久走大会（12月9日第40号より）

今週の火曜日に、持久走大会が行われました。（略）一人一人がとてもよい走りをしており、日頃の練習の成果が見事に表れていました。（略）普通ですと、友達と一緒にジョギング程度のスピードで走ることが多いのです。しかし、それではせっかくの練習時間がもったいないので、「一人で、黙々と走ること」に決めました。それからは、みんなその通りにがんばり、本番さながらのスピードで走り込みをしていました。そのがんばりが、走力を高める結果につながりました。（略）同じことをするのなら、全力でやった方がよいことは、このことから明らかになりました。この調子でこれからも練習を続けたら、来年はもっと速くなるにちがいありません。実際に、5年生まで遅かった子どもが一年間練習を続けて、6年生の時に大差で優勝したのを見たことがあります。やればやるほど速くなるのが、持久走なのです。

授業や行事を通して、学級全体と一人一人に考えをもつことや努力することの大切さを働きかけた結果、次のような数値の伸びが見られました。

要素	向社会的欲求	深い思考	独立達成	充実感
第1回	2.77	2.67	2.82	3.33
第2回	3.02	2.97	3.03	3.55

教師の振り返り

アンケートからは、ある要素が低い子どもや、自信がない子どもが見えてくるので、個別の指導に役立ちました。「自分もやればできる」という気持ちになれるように、ほめたり励ましたりすることが大切です。今後も学ぶ意欲を高めるための手立てを考えていきたいと思えます。

◆取組のポイント

*以下、学校名を東那須野中と表記

- 年度初めの校内研修で、リーフレット「学ぶ意欲をはぐくむ」を読み、基本的な考え方の共通理解を図った。
- 学習指導案に「学ぶ意欲との関連」を位置付けた。
- 公開授業、授業研究会の後に、学ぶ意欲の向上のための研修を実施し、具体的な取組について情報交換をした。
- 他教科の教諭とのTT授業を組み、互いに指導法を学んだ。

◆学校課題との関連

研究主題：基礎・基本の確実な習得を図りながらコミュニケーション能力を育成する
授業の工夫・改善

東那須野中では、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、それらを活用する力として思考力・判断力・表現力等を育成するには、コミュニケーション能力の育成が必須であると考えて主題を設定しました。まずは、学力の重要な要素であり、確かな学力を育成する上での基盤となる学ぶ意欲の向上を目指し、学校全体で共通理解を図り研究に取り組みました。

◆第1回アンケート結果及び実践の方向性

学校全体の結果

安心して学べる環境	知的好奇心	有能さへの欲求	向社会的欲求	おもしろさと楽しさ	有能感	充実感
2.78	2.73	3.35	3.42	2.72	1.99	3.14

情報収集	自発学習	挑戦行動	深い思考	独立達成	協同学習
2.73	2.70	2.53	2.77	2.67	2.82

「有能さへの欲求」が高く、生徒は「できるようになりたい」という気持ちをもって、授業中に意図的に働きかけることによって、学習行動レベルの構成要素を向上させることができること、この2点について全職員で共通理解を図りました。

それらのことをふまえて、各教員が、学ぶ意欲の向上のためには授業で何ができるかを考え、学習活動の展開を工夫したり、個々の生徒への働きかけをしたりしました。

第2回のアンケートで数値が上がった学級の担任を中心に、聴き取りを行いました。聴き取った内容から、特に学ぶ意欲の向上に結びついたと思われる取組を紹介します。

(1) E教諭の取組

キャリア教育の充実を通して、自己を見つめさせる

事例1 学級活動 2年 「職業について」

単元のねらい	<ul style="list-style-type: none">・職業についての興味・関心を深め、自分の理想の将来と照らし合わせながら、職業観や勤労観の基礎を養うことができる。・職業について建設的に考え、自分の意見を相手に伝えることができる。
本時の概要	<ol style="list-style-type: none">1 学級の仕事に対する意識調査アンケートの結果と働いている人たち（販売業、農業）へのインタビューを聞く。2 自分たちと働く人の意識の違いについて、個人で考えた後、班ごとに意見をまとめて発表する。3 自分の将来について大切なこととその理由、今努力できることを考え、発表する。4 働いている人たちから「今、中学生にとって大切なこと」についてメッセージを聞く。5 本時の活動の感想を話す。

見通しをもたせ、主体的な活動を促す（自発学習、協同学習）

事前に、学習の意図と職場体験でお世話になる事業所の方にインタビューをすることを生徒全員に伝えました。また、運営担当の生徒には、学級活動当日までの手順を示し、見通しをもたせました。

アンケートの項目や事業所の方へのインタビューの内容などは、生徒達自身が話し合っ

て決めました。

授業では、運営担当の生徒一人一人が分担した役割を担い、話し合い活動を行いました。毎週行われる学級活動の時間に、このような運営の担当者を持ち回りで経験させることにより、自発的に活動したり、友達と協力し合ったりすることができるようになりました。

体験的な学習活動を取り入れる（自発学習、協同学習）

今回の学習では、担当の生徒が、働くことの実際について、事業所の方へ直接インタビューをする活動を取り入れました。その様子を撮影し、学級活動の時間に視聴して、グループごとに「働く人との考え方の違い」について話し合いました。

話し合いでは、生徒たちが、自分の考えを活発に述べ合う姿が見られました。

自分の友達がインタビューしてきたことや、答えてくれた人が身近な方であったことが、働くことについて真剣に考えるきっかけとなりました。

◇アンケートの内容◇

- 1 仕事をしていて一番楽しいこと
- 2 仕事をしていてよかったこと、つらいこと
- 3 仕事をしていて大切なこと
- 4 仕事を通して学ぶことは
- 5 何のために働くのか

現在の自分自身について見つめさせる（向社会的欲求）

実際に働く方へのインタビューでは、「仕事は楽しいことばかりでなく、苦勞も多いこと」「大変さの中にも、消費者に喜んでもらえたときに働きがいを感じること」「厳しさの中にも努力することによる喜びがあること」などが分かり、自分たちの働くことへの考えとの違いを感じ取ることができました。

E教諭は、将来、社会に出て働く生徒たちに、中学生のこの時期にやるべきことを自覚してもらいたいという願いから、インタビューに答えてくださった方に、「今、中学生にとって大切なこと」というメッセージをお願いしました。メッセージを聞いた生徒たちは、自分自身の生活を振り返って、「今、自分たちに努力できること」を文章にまとめ目標を新たにすることができました。

【生徒の感想】

- ・毎日の積み重ねが大切だとわかった。今、自分にできることを考えてやれるようにしたい。
- ・両親や地域の人に感謝し、将来たくさんの人の役に立ちたいと思った。
- ・人間関係やあいさつ、こつこつ努力することなど、仕事において大切なことは、すべて学校生活に関わる大切なことなので、今の自分の生活を見直したい。
- ・働くことの大変さがわかった。「生活のため」だけでなく「家族を幸せにするため」というのが印象的だった。
- ・働いている人は個人的な考えだけではなく、常に広い目で周りを見ることができていて、今の自分たちとは全然違う感じがした。
- ・運営係は準備など一番大変だったと思う。

2年E組は、第2回のアンケートで、次のような数値の伸びが見られました。

要素	有能さへの欲求	向社会的欲求	自発学習	協同学習
第1回	3.21	3.25	2.82	2.77
第2回	3.48	3.54	3.07	3.09

教師の振り返り

- ・働くことについて考えたことにより、自分から行動することの大切さに気付き、今やるべきことに自覚をもつことができました。特に、学習を頑張ろうという気持ちになった生徒が多く、家庭における自主学習への意欲的な取組が見られるようになりました。
- ・生徒が主体となった学級活動を何度か行ったことにより、普段の生活においてクラスに貢献しようとする姿が見られるようになりました。

(2) 第1学年の取組

体験を重視して、情報収集能力の向上を目指す

事例2 総合的な学習の時間 1年 「地域に学ぶ」

1学年の教諭は、書物やインターネットからの情報だけではなく、他の方法で情報を収集するにはどんな方法があるかを考えさせることにより、「もっと知りたい」という気持ちや「次はこんな方法で調べてみたい」などといった意欲につなげたいと考えました。

また、自ら選択した課題を解決して、充実感を味わわせたいという願いから、足を運んでインタビューをしたり、実体験したりする活動を取り入れました。

ねらい	「地域に学ぶ」をテーマに、情報収集や活用の仕方を学ぶ
単元の概要	1 地域の方の講話を聞く 2 各自が課題を決定 3 計画書の作成 4 事前準備（インタビューの事前連絡、質問事項の確認） 5 体験、調査 6 まとめ 7 発表（クラスでの発表→3年生の発表会に参加→保護者参観にて全体発表）

自分の興味に基づき課題を設定する（自発学習）

個人の課題設定に先立ち、学習への関心を高めるために、地域で活躍する製パン業の社長さんをお招きし、講話をいただきました。自分の住む地域には素晴らしい方がいるということのを再認識するとともに、自分の郷土に興味を抱き、もっと調べてみようという意欲をもたせることをねらいとしました。

課題設定の際には、那須地区と限定せず、栃木県全体を視野に入れた上で「自分の興味のあるもの」としたことにより、一人一人が意欲をもって取り組むことができました。

【課題例】

「栃木のいちご」「那須塩原の自然」「大鷹の湯」「那須にはなぜ雷が多い？」
「栃木の方言」「栃木に伝わる言い伝え」
「栃木のグルメ」

【調べ方】

◎必ず実体験を伴ったものとする

- ・インタビュー
- ・現地調査
- ・料理、制作 など

課題解決の方法や記録の仕方を選択する（情報収集）

どんな方法で課題解決できるかをそれぞれ考えさせました。そして、郷土料理を実際に作ってみたり、工場見学を試してみたり、現場に行き写真撮影したりなど、体験を伴う調べ学習を行いました。その後、疑問に思ったことを本やインターネットを利用し、詳しく調べた生徒もいました。

インタビューに行く際には、事前に連絡を取り、質問事項の確認などの準備をさせました。働く人から直接、話を聞くことができたことにより、学校課題であるコミュニケーション能力を身に付けることにもつながりました。

学習のまとめで充実感を味わわせる（充実感）

次のような流れで、発表を行いました。

- 調べたことを模造紙にまとめ、クラスで発表会を行う。
- 3年生の発表会に参加する。
- 3年生の発表をモデルとして、自分の発表の準備をする。
- 学年での全体発表会（保護者を招待）を行う。
 - ・クラスでの発表より自信をもって臨めた。
 - ・緊張感があったが、伝え方は向上していた。
- 友達の発表にコメントを書く。

【発表の様子】



〔生徒の感想〕

- ・インタビューをして相手のことが理解できた。人間性についても学べた。
- ・関係者以外立ち入り禁止の場所にも通してもらい、仕事場の様子が見られた。
- ・みんなまとめ方が上手で、栃木のことをいろいろ知ることができてよかった。次回はもう少し詳しく調べたい。
- ・初めての発表でスムーズにできなかったけれどがんばった。
- ・みんなの発表が参考になった。今後、発表をする機会があったら、もっとゆっくり話したい。

第1学年は、第2回のアンケートで、次のような伸びが見られました。

要素	有能さへの欲求	向社会的欲求	情報収集	自発学習
第1回	3.31	3.45	2.72	2.62
第2回	3.41	3.48	2.83	2.79

教師の振り返り

- ・自分たちの発表の前に3年生の発表を聞いたので、イメージをつかむことができたようです。調べたことを伝えようとする意欲が高まり、よりよい発表を心がけていました。
- ・自分で作成した資料を基に、人前で発表するという経験をしたので、自信をもてるようになりました。

(3) F 教諭の取組

学習の手順やゴールの姿を示し、進んで取り組ませる

事例3 国語 1年 「本の世界を広げよう」

単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の世界に興味をもち、感動の所在を確認しながら読み味わう。 ・豊かなイメージの想像を促す情景・状況の描写や表現に気付く。 ・作品の面白さが伝わるよう想像をふくらませて発表原稿を作成する。
単元の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 選んだ小説の感想を話し合う。 2 4人グループで、前時に読んだ小説を紹介するボードを作成するためにワークシートに沿って意見の交換をする。 3 よい部分を探し、1枚のボードにまとめ、発表原稿を作る。 4 次時の発表に向け3段階に分けてリハーサルを行う。 5 クラス全体に向け発表する。

手順とゴールを明確にして取り組ませる（有能さへの欲求、自発学習）

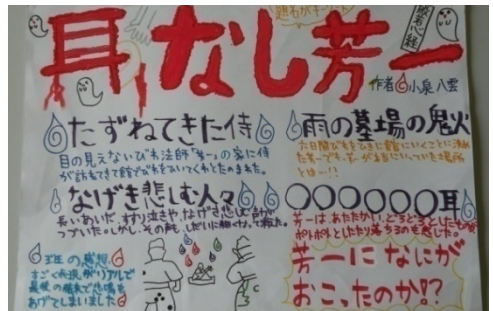
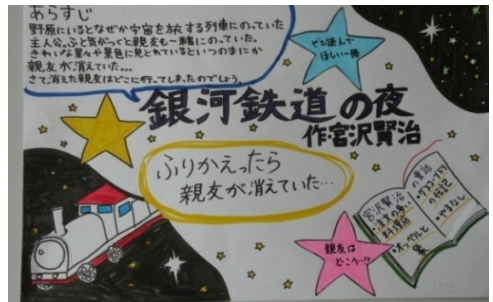
学習の手順やゴールを示すことで、安心して取り組むことができます。単元の始めにねらいと学習の手順を示し、単位時間の始めにも本時の学習の手順を伝えました。単元と本時のゴールを理解し学習の見通しをもつことで、「自分にもできそう」と感じ安心して主体的に取り組むことができました。

【手順を示したワークシート】

文学作品を読んで、その面白さをほかのグループに伝えよう
 ▲手順▼

- ・ 選んだ小説を途中で読む。
- ・ その後の展開を各自で予想する。
- ・ 各自の予想を班で話し合い、班の予想を立てる。
- ・ 小説の続きを読む。
- ・ 読んでみてどうだったかを話し合う。
- ・ (本時)
感動を読んでいない人に伝えるための資料を各自で作る。
- ・ 各自の資料を班で読み合い、良い部分を合わせてひとつの作品を作る。
- ・ 発表するための原稿を作る。
- ・ 発表練習を行い、アドバイスを受けてより良いものに直す。
- ・ 作品を清書する。
- ・ 発表する。

【完成作品の例】



自分の考えと友達の考えを比較し、発表の仕方を助言し合う（協同学習、深い思考）

互いの意見を交換することで、考えの違いに気付くことができます。

グループで原稿を書く時には、聞いた人が「その小説を読みたい」と思うような発表にするように伝え、「印象に残った場面や景色」「印象的だった言葉や行動」「特に紹介したい場面」などの視点で考えるように指導しました。

作成した発表資料や原稿を基に、3段階（班の中で→先生の前で→他の班の前で）に分けてリハーサルをしました。それぞれが上記の視点で具体的にアドバイスをし合うことができました。これを生かしてよりよい発表になるように発表原稿を推敲させ、発表本番に臨ませました。

F教諭は、他の単元でも、協同学習をさせた上で発表させる活動を意図的に設定しています。段階を踏んだ発表の準備をすることで堂々と発表ができるようになってきました。このような成功体験をさせて、有能感を高めたいと考えています。

【発表内容について話し合っている様子】



【発表の様子】



1学年の全クラスとも、この授業を実施しました。1学年の第2回のアンケート結果から、次のような伸びが見られました。

要素	有能さへの欲求	自発学習	深い思考	協同学習
第1回	3.31	2.62	2.75	2.92
第2回	3.41	2.79	2.82	2.98

教師の振り返り

- ・グループで取り組ませたことにより、発表用原稿や資料がよりよいものに仕上がりました。
- ・発表も役割を分担したので、一人一人が充実感を味わえたようです。
- ・夏休み中に、発表した作者の他の本も読んだ生徒がいました。

(4) 校内研修の取組

授業研究会では、本時の授業で生徒が意欲的に学習していた場面について話し合い、その後、各教師が取り組んでいる意欲を高めるための工夫について情報交換を行いました。

次に、「学習に関するアンケート」の質問項目別平均値の高い順に並べ替えた一覧表を活用し、自校の課題を確認して、どのような働きかけが必要なのか共通理解を図りました。

「学習に関するアンケート」の質問項目別平均値

要素略称	No.	第2回	第1回	質問項目
向社会的	28	3.67	3.60	思いやりのある人になりたい。
有能さ	15	3.55	3.45	もっとかしくなりたい。
充実感	3	3.35	3.31	毎日、明るく元気に生活している。
向社会的	9	3.33	3.26	社会のために役立つような人になりたい。
有能さ	8	3.32	3.27	自分もっている能力を十分に発揮したい。

上位には、欲求・動機レベルの要素が多い。

協同学習	11	2.88	2.85	授業では友だちと協力して学ぶことも多い。
独立達成	17	2.80	2.77	できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。
自発学習	19	2.79	2.73	自分から勉強に取り組んでいる。
知的	4	2.78	2.78	よくわからないことは、わかるまで調べたい。
挑戦行動	13	2.78	2.77	今までよりも、むずかしい問題に取り組むことが多い。

おもしろさ	24	2.56	2.54	失敗しても学ぶことはおもしろい。
安心	12	2.32	2.37	先生は学習のことについてほめてくれる。
挑戦行動	20	2.24	2.30	むずかしい問題にであうと、よりやる気がでる。
有能感	10	2.03	2.16	勉強面では友だちからたよられていると思う。
有能感	23	1.77	1.84	自分は勉強はよくできると思う。

具体的な課題が見えてくる。

研修の中で、多くの教師から、「学ぶ意欲の数値の高い生徒は、自分の進路への関心が高い傾向にある」という話がありました。このことから、中学生という発達段階において、キャリア教育を充実していくことは、学習意欲を高めることの手立ての一つであると考えられます。

◆取組のポイント

*以下、学校名を西中と表記

- 校内体制がよく整備され、学年間、教科間での共通理解が図られた。
- 職員の研修を充実させることで、教師としての資質の向上にもつなげた。
- 学習習慣の育成・家庭学習の充実に力を入れていた。
- 環境の整備に力を入れ、生徒の学びたいという気持ちに応えている。それが、教師に対する信頼に結びついた。

◆学校課題との関連

- 研究主題：自ら学び考える生徒の育成
- 研究仮説：生徒の学習意欲を高めながら、一人一人の生徒に基礎的・基本的な内容を教え考えさせる授業を行うことで「自ら学び考える生徒」を育成できるであろう。
- 研究の組織：授業研究部、学力向上部、調査・研修部の3つの部を組織した。

仮説の検証のために、3つの部を中心にして研究に取り組みました。

〔授業研究部〕

- 学習意欲を高めるための工夫の共有
- 研究授業の実践
- 学年部会での学習事項の情報共有
- 開かれた授業の実践

〔学力向上部〕

- 主体的な学習態度の育成
(学習習慣の確立)
- 学びたくなる環境作り
- 家庭学習の習慣化

〔調査・研修部〕

- 学習に関するアンケート分析と課題の提案
- 全国学力・学習状況調査の分析と課題の提案
- 職員研修の充実

◆第1回アンケート結果及び実践の方向性

学校全体の結果

安心して学べる環境	知的好奇心	有能さへの欲求	向社会的欲求	おもしろさと楽しさ	有能感	充実感
2.79	2.69	3.43	3.48	2.78	1.98	3.18

情報収集	自発学習	挑戦行動	深い思考	独立達成	協同学習
2.62	2.72	2.57	2.80	2.81	2.79

数値が上がった学級の担任、学年主任への聞き取りをもとに、3つの部会ごとに事例を紹介します。

(1) 授業研究部の取組

授業研究部は、お互いの授業を見合う開かれた授業の実践を推進しています。そのことで得た気付きや同僚の工夫などを参考にして、それぞれの教員が自分の授業改善に取り組んでいます。その取組の中から、いくつかを紹介します。

学習課題を工夫する

事例1 社会科 3年 「模擬裁判をやってみよう」

裁判員制度の学習では、出てくる司法用語や概念が難しいため、教師の説明だけではイメージをつかみにくいと思われます。そこで、生徒に裁判のイメージをもたせ理解を深めさせることをねらい、裁判の一部を模擬体験させることにしました。

授業のねらい	裁判官、検察官、弁護士、裁判員などの具体的な働きを通して、法に基づく公正な裁判によって人権が守られていることを理解させる。
授業の概要	1 現在の裁判所について学習した後で、裁判員制度の概要を知らせる。 2 シナリオを配付し、事件の概要を説明し、役割分担をする。 3 模擬裁判を行う。 4 判決を考える。 5 裁判員制度による司法への参加の仕方について考える。

模擬体験を取り入れた授業（深い思考）

授業では、指導者の用意した模擬裁判のシナリオを基に、刑事裁判の論告求刑の場面でロールプレイを行いました。そして、それぞれが裁判員の立場であったと仮定して、判決とその理由を考えさせました。

【ワークシートの一部】

＜ワークⅡ＞ 裁判員として裁判にかかわることを、あなたはどのように思いますか。

判決を出すのは難しい間違った判決を出してはいけないので、中途半端な気持ちでやってはいけないと思う。

＜ワークⅡ＞ 裁判員として裁判にかかわることを、あなたはどのように思いますか。

迷っています。たぶん死刑とかの判決が出たら、耐えられないかなと思います。でも国民が裁判にかかわることでいろいろな意見が出てくるので、いいと思います。

生徒たちは模擬体験を基にして、実感を伴った感想を記していました。

この事例のように、体験的な学習活動を取り入れるなど、課題や学習活動を工夫し、主体的に判断する場面を設定することで、表面的な理解ではなく、深く考えさせることが可能となります。

事例2 数学 3年 「二次方程式の利用」

数学の学習では、基本的な内容を繰り返し学習させ基礎を定着させることが大切です。

しかし、それだけでは単調な学習になってしまうので、発展的な問題にも取り組ませる場面を意図的に設定しています。今回の授業では、自然数の性質や二次方程式など既習の学習を生かして取り組める課題を設定しました。

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自然数の和を求める方法を考えようとする。 ・自然数の性質を利用して、1からnまでの自然数の和を求めることができる。 ・2次方程式を用いて与えられた1からnまでの自然数の和からnの値を求めることができる。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習内容の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【課題】 1からnまでの自然数の和が666のとき、2次方程式を利用してnの値を求めよう。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 2 考え方の原理を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自ら考えたり友達と相談したりして問題解決のために、整数の性質を用いて求めるよう助言する。 3 課題を解決する。 4 類題を解く。 5 まとめ

発展的な問題への挑戦（挑戦学習）

単に難しい課題を与えただけでは、抵抗感を示す生徒も多いと思われます。そこで考え方の原理を理解させる部分を重視し、友達と相談する時間を設けたり、助言し合ったりするようにしました。その結果、生徒は、難しい課題にもかかわらず、その解決に向けて熱心に問題に取り組むことができました。

基礎・基本の定着に加えて、発展的な学習に取り組ませることも必要なことです。課題の与え方を工夫することで、難しい課題に挑戦しようという気持ちが高まります。また、できたときには「自分の力で解けた」という自信をもつことができ、学習に対する興味や関心を高めることにつながります。

【難しい課題に取り組んでいる様子】



事例3 英語 2年 「How can we find out?」

英語の学習では、基本例文を反復して正確に覚えることが大切です。しかし、例文が生徒の実生活と離れていると形式的な学習になり、身に付かないこともあります。そこで、表現意欲を高めることをねらって、この単元では生徒にとって身近な題材を取り上げました。

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・文の構造を理解し、その例文の意味を理解できる。 ・比較級を含む文の内容を理解し、自然な英文を作ることができる。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時の復習 2 比較級の文の構造についての説明 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって身近な題材を取り上げ、興味・関心を高めながら、比較級の構文・意味・使い方を理解させる。 3 グループ学習で、ばらばらになった語句を並び替えて、文を完成する。 4 完成した英文を書き取り、日本語訳をする。

日常生活と関連させた題材を取り入れた授業（知的好奇心）

【学び合いの様子1】



【学び合いの様子2】



授業では、アニメのキャラクターや、動物、有名人など、生徒にとって親しみやすい題材を視覚的に提示できるよう準備しました。

生徒にとって身近な題材を取り上げたことで、練習する声が大きくなり、いろいろな例文をいくつも作り、友だちと発表する姿が見られました。その後のグループ活動でも、互いに教え合いながら、比較級の文づくりに取り組んでいました。

相互に学び合う場を多く設定する

事例4 音楽 2年 「混声合唱の豊かな響きを味わおう」

合唱コンクールの発表に向けて、2学期には各学年とも混声合唱の学習を行っています。指導に当たっては、各パートの練習を中心として、生徒が相互に課題や気付きを出し合う場面を多く設定しました。

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の意味や情景を感じ取りながら、曲想表現を工夫することができる。 ・ピアノ、指揮者ととも一体感のある演奏を工夫することができる。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 本時の学習内容の確認 2 発声練習等 3 各パートの課題の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・各パートによる課題のチェック ・不安箇所の確認 4 伴奏との合わせ

	<ul style="list-style-type: none"> ・録音したものを聴き、更に改善点を見つけさせる。
5	<p>本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表で達成感や感動を味わえるようにアドバイスをする。

合唱の発表を目指した生徒による教え合い（協同学習、充実感）

授業では、各学級ともパート練習や全体練習など、指揮者やパートリーダーなどを中心に、改善点や練習の方針などを確認し合いながら練習に取り組む姿が見られました。教師はそうした取組を認めつつ、向上のためのポイントをアドバイスしたり、励ましたりと受容的な態度で接しました。特に、学習の伸びを認め、ほめることを意識して行いました。

発表会では、各学級とも練習の成果を来場者の前で堂々と発揮することができました。

題材のまとめでは、合唱コンクールについて、指導者の示した観点に沿った自己評価と自由記述による振り返りをさせました。

【生徒による振り返り】

当日、リハーサルをやり、本番は明るくさわやかにということに注意して歌いました。「〇〇（題名）」では、練習して分かったこと、気づいたことを直して歌えたのでよかったなあと思いました。ハーモニー実行委員さんやパートリーダーさん達もすごくがんばってくれたのでうれしいです。伴奏者さん、指揮者さんにも感謝です。

△組の団結力がより深まってよかったなあと思いました。来年もこのクラスのこのメンバーでやりたいです。（2年）

問題点はいくつもありました。分からなくなってしまったときは家で練習し、楽譜を読み問題点を一つずつ、つぶしていきました。つぶせなかった点もありましたが、今回は全力を尽くしました。とにかく大変でした。クラスの中でも、みんなで必死に音取りして、みんなで悪い所を話し合ったりしてがんばりました。途中でケンカも少々ありましたが、最後には全員が心をつにして（歌い）、団結の大切さを学びました。みんなで歌えて、今までで一番楽しかったです。（2年）

この振り返りカードからも、生徒が課題意識をもって学習活動に取り組んでいたこと、協力し合って発表したことにより充実感をもったこと、学級の団結力が強まったことなどが読み取れます。

合唱コンクール以後、「授業の雰囲気以前にも増して明るくなった」「前向きになった」という声が教師の間から聞かれるようになりました。学級の人間関係は、学習に向かう雰囲気づくりに大きく影響を与えます。学習のねらいの達成を目指しつつ、学び合い活動などを積極的に取り入れていくこと、充実感が味わえるように支援していくことが大切であることが分かります。

学習状況について情報を共有する

日常的な情報交換

西中では、日頃から教員が、積極的に情報交換をしています。生徒指導についてはもちろん、教科についての情報も共有することにより、教科の枠を超えた授業研究がすすめられています。

また、生徒の学習意欲を高めるために、個々の生徒の授業に対する取組を知らせ合うことを意識的に行っています。休み時間や放課後に生徒のよいところを伝え合う会話が日常的に交わされています。

そうした生徒に関する情報は、生徒に対する多面的な理解に役立つとともに、指導の充実につながっています。

(2) 学力向上部の取組

学力向上部では、「主体的な学習態度の育成」「学びたくなる環境作り」「家庭学習の習慣化」を柱として、特色ある取組を行っています。それぞれの柱に関する取組について紹介します。

学習習慣を確立する

目指す生徒の姿を共有（安心して学べる環境）

西中では、主体的に学習する態度を身に付けさせるために、よい学習習慣を身に付けさせることを重視しています。

教職員が同じ歩調で指導に当たるために、学年部会や打合せなどを利用し、学年が同一歩調で指導に当たるための確認をしています。

例えば、今年度の第1学年では、卒業時には「規律を守り、自己表現ができる生徒」に育てるという目標を教職員が共有しています。

そのために、次の2点を1学年の重点目標に掲げ、指導に当たっています。

- 人の話をよく聞く。
- 日々の授業において、失敗や間違いを責めない。

この目標を学年朝会など、機会あるごとに生徒に伝えることで、目指す姿の共有化を図り、学びに向かう集団づくりに取り組んでいます。

規律というと窮屈なもの、守らねばならないものという印象もありますが、やはり学習を成立させるうえでは必要不可欠です。学びに向かう集団の中で学習し、学ぶ意欲が高まれば、自己表現の力が身に付き、それを発揮できるのではないかと考えています。

学びたくなる環境を整備する

自主的な学習への支援（自発学習、向社会的欲求）

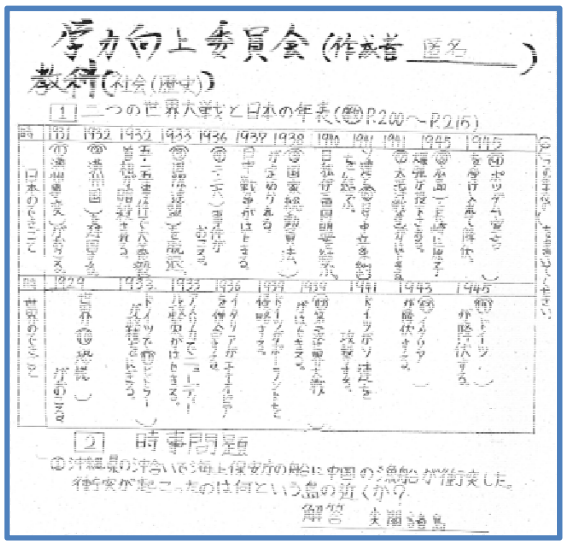
生徒の学習を支援するため、工夫のある取組が展開されています。例えば、生徒を取り巻く物理的な環境の整備にも力を入れています。教室や廊下の空きスペースに簡易な問題を掲示し、学習への意識を啓発しています。身近なところに授業で学習した問題があることは、学んだことの確認にもなり、学習内容の定着にもつながっています。

西中には、委員会活動として学力向上委員会があります。この委員会の活動の一つとして、各教科で学習した内容について、委員が学習プリントを作成しています。委員は問題づくりにも協力し合っており、他の生徒は、このプリントを活用しています。

多目的スペースを活用した学習会（自発学習）

2階廊下の多目的スペースには、進路に関する資料や問題集などを集めた書架が置かれています。昼休みにそのスペースを活用して、生徒たちの質問を受け付ける学習会を行っています。指導に当たるのは、3学年の教員が中心ですが、どの学年の生徒も気軽に利用しています。特に、2学期以降は、3年生の進路に対する意識が高まり、利用する生徒が多くなりました。

【学力向上委員会のプリントの一部】



【昼休み学習会の様子】



家庭学習の習慣化を支援する

家庭学習への支援（自発学習）

進路の選択に向けて、様々な形で学力の向上を目指した取組がなされています。

例えば、ある学級では、基本的な問題を中心とした家庭学習用の学習プリントを配布し、提出させています。提出させたプリントは、学級担任が確認をし、間違った箇所について簡潔な解説を書き加え、生徒に返却しています。先生の励ましのコメントが添えられており、生徒に好評です。

毎日繰り返すことで、生徒から問題の解き方について質問が出されるようになってきました。このように、生徒の学力向上に熱心に取り組む先生の姿は、生徒のやる気を高め、家庭学習の習慣作りによい影響を与えます。

（3）調査・研修部の取組

調査・研修部では、「学習に関するアンケート」「全国学力・学習状況調査」等、諸検査の分析や、参考図書の紹介を通して、各部に様々な提案をしています。

学習に関するアンケートを定期的実施する

アンケートの分析と活用

西中では、アンケートを6月と12月に実施しました。定期的実施し、生徒の学習意欲の変容をとらえることは、日々の指導について振り返るきっかけにもなります。

生徒の学習意欲は一定ではありません。全体的な傾向とともに、顕著な特徴を示す生徒などをとらえることで、個に対する指導の充実を図ることも可能になります。

〔教師の声〕

- ・生徒によって学習意欲の差が大きいため、課題解決の支援の仕方を工夫する必要があると感じた。
- ・ペアワークやグループ活動を取り入れ、協力して学ぶ機会を設けるようにした。
- ・結果を見て、これまで以上に個々の生徒に目を向けるようになった。
- ・思考が必要な発問を設定するように心がけた。
- ・長い間教師をしていると、授業の進め方に偏りが出てくると感じたので、様々な要素を意識していく必要を感じた。

中学校では、教科担任制がとられているため、アンケートの結果を自分の指導と関連付けてとらえにくいという側面があります。結果の分析は、一部の教員だけでなく多くの教員で行い、更なる改善に向けて協力できる体制を作ることを目指しています。

職員研修の充実

調査・研修部の実践内容の一つに、職員研修の充実があります。具体的には、「参考図書の紹介」や「学習意欲や言語活動に関する本の紹介」などを行っています。

調査・研修部に所属する教員が、分担して参考図書を読み、概要をA4版用紙1枚程度のレジュメにまとめ、校内研修の際に全員に説明するというものです。これは、生徒に主体的な学びを促すには、まず「教職員が意欲的に学ぶことが大切なのではないか」という考えのもとに実施されています。

夏休みには、次のような参考図書の紹介がありました。こうした紹介は、多くの教員から好評を得ています。また、併せて「学習に関するアンケート」の結果やデータの見方についても夏休みを利用して共有する機会を作っています。

【参考にした図書】

- ・志水宏吉 「『学力』を育てる」
- ・エドワード・L・デシ+リチャード・フラスト 「『人をのばす力』内発と自律のすすめ」
- ・辰野千尋 「科学的根拠で示す学習意欲を高める12の方法」
- ・波多野誼余夫・稲垣佳世子 「知的好奇心」

【調査・研究部のレポートの一部】

「学力」を育てる 志水宏吉 著

はじめに プロローグ—私の「学び」との出会い 第1章 学力をどう捉えるか—「学力の樹」
第2章 子どもたちの学力はどうなっているか 第3章 学力の基礎はどう形づくられるか—家庭の役割
第4章 いかに基礎学力を保障するか—学校の役割 第5章 「学力の樹」をどう育てるか—地域の役割 エピローグ—公立学校の未来を考える

●はじめに 学力とは「わかる力」と「つなぐ力」である。
「わかる」とは「分かる」であり、物事をちゃんと分けて捉えること。その分けられた個々の要素を関連づけて把握し、部分部分を「つなぐ」ことによって、ひとつの全体を理解する。
「わかる」は分析であり、「つなぐ」は総合である。この2つをバランスよく、子どもに身につけさせることこそ、学力を育てること。

●学力の樹
「三つの学力が文字通り一体となって、ひとつの学力の樹を形づくっている」p39
「その子の持ち味、その子の個性を的確に見極めることがきわめて重要。その子にあった働きかけその子にあった環境を用意することが大切」p42 「樹はグループで育つ」p42
「おそらく最も大事な部分は「根っこ」である。あるいは「根っこを育む」ことである p 47

図1-4 学力の樹

これまでの取組について、学ぶ意欲を高める上で効果的であった事柄を質問したところ、次のような回答を得ました。

教師の振り返り

- ・授業を互いに見合うことは、生徒の多面的な理解につながると感じました。
- ・TTによる授業も可能な限り導入しました。結果として、授業を「見られる」ことに対する抵抗感がなくなり、積極的に授業を見合うようになりました。
- ・年間5回の計画訪問の授業研究会を予定している他、授業の中で意欲を高めるための働きかけを見合うことは、自分の授業を考えるきっかけになりました。

コラム

【教師の働きかけと児童生徒の変容との関係】

教師が重点的に働きかけた構成要素と、「学習に関するアンケート」における児童生徒の意欲の伸び率を示したものが、下のグラフです。

教師が「重点的に働きかけた」と回答した割合が高かった項目の中で、特に「知的好奇心」と「協同学習」に着目してみます。

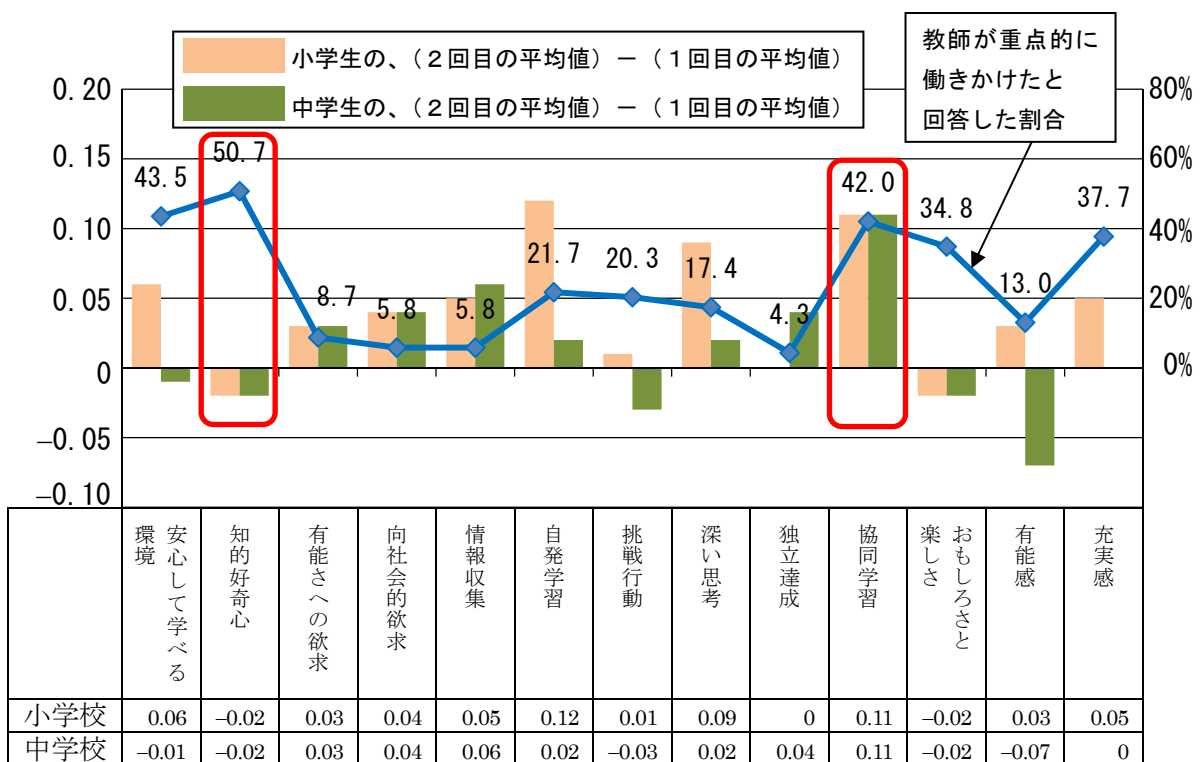
「協同学習」は、児童生徒の数値が高まっていることから、教師の働きかけが有効に働いていると考えられます。

一方、「知的好奇心」は、教師が働きかけたと回答した割合が最も高かったにも関わらず、児童生徒の数値は下がっています。

このことから、教師の働きかけが意欲の高まりにつながりやすい構成要素と、つながりにくい構成要素があることが分かります。

「知的好奇心」については、指導の工夫により「おもしろそうだ」と子どもが感じる場面は多々あります。しかし、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」といった「知的好奇心」にまで高めることは、容易ではないことが分かります。

伸びにくい要素については、根気強く継続的に働きかけをするとともに、働きかけ方についてもさらなる工夫が求められます。



◆調査概要

対象 協力校4校の教員 (小学校: 22名 中学校: 44名)

実施時期 平成22年11月(第2回の児童生徒のアンケートと同時期)

質問項目 「学ぶ意欲をはぐくむ構成要素の中で、重点的に働きかけたのはどの要素ですか。」

第4章

学ぶ意欲を高める校内研修

学ぶ意欲に関する校内研修の4つのプログラムを紹介します。

この章の校内研修プログラムを学校において実施する際は、センター職員が研修の実際を支援することができますので、下記までお問い合わせください。

栃木県総合教育センター 研究調査部 TEL028-665-7204

プログラム1 学ぶ意欲に関する課題の把握

研修の計画

■ 研修のねらい

「学習に関するアンケート」の結果を分析し、学校、学年、学級の学ぶ意欲の実態を把握し、学ぶ意欲を高めるための重点目標を設定する。

■ 方法・形態 グループ協議

- 事前準備 リーフレット「学ぶ意欲をはぐくむ」を読む。
「学習に関するアンケート」を実施する。

■ 展 開

内容	時間	概要及び留意点	資料
1 学ぶ意欲のプロセスの理解	15分	・学ぶ意欲のプロセスについての説明を読み（講師、学習指導主任から聞き）構成要素について共通理解を図る。	・本冊子（p 4～5）
2 「学習に関するアンケート」の学校全体の結果を分析	15分	①学校全体のデータを見て、傾向を把握する。 ②日頃の観察からの認識と合致する点、相違点などについて話合う。 ③学ぶ意欲を高めるための学校としての重点目標を一つ設定し、ワークシートに記入する。	・「学習に関するアンケート」結果 ・ワークシート
3 「学習に関するアンケート」の学年・学級の結果を分析（学年を中心としたグループ）	15分	①学年のデータから、学年の傾向を話し合い、重点目標や手立てを決めて、ワークシートに記入する。 ②学級のデータから、学級の実態を把握し、どの構成要素を中心に伸ばしていくか、また、その手立てを話し合う。	・「学習に関するアンケート」結果 ・ワークシート
4 情報交換	10分	・各学年の傾向と重点目標を発表し合い、共通理解を図る。	
5 振り返り	5分	・アンケートの結果に対する感想や今後の学習指導に生かしたいことをカードに書いたり話し合ったりする。	・振り返りカード

■ 評 価

自校の子どもの学習意欲に関する課題を共有し、目標や重点的に働きかける構成要素について、考えることができたか。

研修の進め方

強みと弱みを書き出す

「学習に関するアンケート」の結果から、右図のようなワークシートを用いて、学校、学年、学級の課題を把握し、重点目標を設定します。

学校全体のデータ分析は、全体会で行い、課題の共有化を図ります。学校の傾向を踏まえて、学年を中心としたブロックで、学年と学級の分析を行い、ワークシートに重点目標を記入します。

学級担任以外の教師も、関わりのある学年のグループで話し合います。

中学校では、教科担任制であるため、ワークシートを共有することが大切です。

【ワークシートの例】

「学習に関するアンケート」の分析（1年）

1 学校全体の重点目標

意見を言える雰囲気をつくる→安心して学べる環境

2 学年の傾向

【強み】 有能さへの欲求、 向社会的欲求	【弱み】 安心して学べる環境、 独立達成、有能感
-----------------------------------	---------------------------------------

3 学年と学級の重点目標

・生徒に受容的態度で接し、よさをほめる。
 ・スモールステップで達成感を味わわせる。

1組	2組
3組	4組

教師の振り返り（例）

- ・日頃の観察による認識と、ほぼ合致していました。授業を工夫して、課題解決を図りたいと思います。
- ・多くの構成要素があることを知ったので、意図的に働きかけをしたいと思います。
- ・後でゆっくり、個人のデータも見て、指導に役立てたいと思います。

留意点・工夫

- 重点目標を掲げて、授業のしかけや子どもへの言葉かけを工夫し、数ヶ月後に再度アンケートを実施すれば、実践の効果を検証するのに役立ちます。
- 次年度の学習に関する学校課題を設定する際に、2学期以降の第2回目のアンケート結果を参考資料とすることも考えられます。

参考

- ・「学習に関するアンケート」とデータ入力フォーム及びリーフレット「学ぶ意欲をはぐくむ」は、栃木県総合教育センターのホームページに掲載していますので、ご活用ください。

<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/leaflet/ichiran.htm>

プログラム2 学ぶ意欲を向上させる働きかけの工夫

研修の計画

■ 研修のねらい

「学習に関するアンケート」の結果を踏まえて、学ぶ意欲を向上させるための有効な働きかけについて協議することで、これまでの授業構成や子どもへの働きかけについて振り返り、授業力及び学力の向上に役立てる。

■ 方法・形態 ワークショップ

- 事前準備 リーフレット「学ぶ意欲をはぐくむ」を読む。
「学習に関するアンケート」を実施する。

■ 展 開

*プログラム1「学ぶ意欲に関する課題の把握」を実施した場合は、内容2からスタートする。

内容	時間	概要及び留意点	資料
1 データの見方についての理解	5分	・アンケートのデータの見方について簡単に説明する。(講師または、学習指導主任)	・アンケート結果
2 データの確認	5分	・学校のデータ及び、指導に関わっている学級のデータを確認し、課題を共有する。	
3 ワークショップ	40分	①リーフレット「学ぶ意欲をはぐくむ」を参考にして、付箋に意欲を高めるための働きかけのアイデアを書く。 ②付箋をワークシート(模造紙)に貼りながら、働きかけのアイデアを紹介し合う。 ・発言は簡潔にすること、どの意見も受け止めることなどを共通理解しておく。	・学ぶ意欲のリーフレット ・付箋 ・ワークシート(模造紙)
4 情報交換	15分	・各グループで出た意見を発表し合うか、グループのワークシートを見て回るなどして、情報交換をする。	
5 振り返り	5分	・協議等を通して参考になったこと、今後の学習指導に生かしたいことをカードに書いたり話し合ったりする。	・振り返りカード

■ 評 価

自校の子どもの学習意欲に関する課題を共有し、学習意欲をはぐくむ働きかけについて協議することによって、今後の取組について考えることができたか。

研修の進め方

働きかけのアイデアを書く

学ぶ意欲を向上させるためには、各プロセスに働きかけることが大切です。リーフレットに示された例を参考にして、授業における具体的な働きかけを付箋に書きます。

付箋には簡潔に書き、詳細は協議の際に説明します。構成要素の略称を表示すると、分類しやすくなります。

<p>【安心】</p> <p>子どもの話をよく聞き、つぶやきを大切にします。</p>	<p>【深い】</p> <p>答えとともに理由を考えさせる。</p>
--	------------------------------------

【教師の働きかけの例(リーフレットp4)】



協議の進め方と効果

右図のようなワークシート(模造紙)を使い、各レベルに分けて付箋を貼り、働きかけのアイデアを話し合います。

日頃、何気なく行っている働きかけを、学ぶ意欲の観点で意味付けることができます。

学校・学年で平均点が低い構成要素や学校課題に関連のある構成要素についても話し合うことで、学校としての重点目標を設定することもできます。

【ワークシートの例】

【安心して学べる環境】

□ □

【③認知・感情レベル】

【②学習行動レベル】

【① 欲求・動機レベル】

□ □

教師の振り返り(例)

- たくさんの働きかけのアイデアを聞くことができたので、自分の重点目標に即して実践したいと思います。
- 個に応じた働きかけをするためには、子どもの反応をシミュレーションしておくことが大切だと思いました。

留意点・工夫

- 働きかけや授業における工夫が、複数の構成要素に当てはまることがあるので、協議の中心が、構成要素を決めることにならないようにしましょう。
- ワークシートを見える所に掲示しておき、学ぶ意欲を高める授業づくりの意識付けを図りましょう。

【参考文献】「組織力の向上を図る校内研修の充実」平成22年11月 栃木県総合教育センター

プログラム3 学ぶ意欲を高める授業研究会

研修の計画

■ 研修のねらい

子どもの姿を基にして、授業の観点及び学ぶ意欲の視点に沿って協議し、授業のねらいの達成度と工夫した点の有効性について検証し、成果と課題を確認する。

■ 方法・形態 ワークショップ（1グループ：6～8人）

- 事前準備 授業の見方、付箋の書き方について共通理解を図る。【参考資料①】
 授業者は、授業の観点や重点的に働きかける学ぶ意欲の構成要素を知らせる。（授業の観点は1つか2つに絞る。）

■ 展開

内容	時間	概要及び留意点	資料
1 研修のねらいを確認	2分	・研修のねらいと研修の進め方について知らせる。（講師または、担当者）	
2 授業者の反省及び協議の内容を確認	3分	・共通の課題のもと、協議を深められるように、授業者が協議してほしい点を含め、授業の観点を確認する。	
3 ワークショップ	30分	①授業の観点について、参考になる点を、付箋（水色）を出しながら、話し合う。 ②授業の観点について、授業者に聞いてみたい点、気になった点を、付箋（桃色）を出しながら話し合う。 ③学ぶ意欲の観点から、①②と同様に話し合う。 ④授業の観点、学ぶ意欲の観点以外について、①②と同様に話し合う。 ⑤貼られた付箋をグルーピングしタイトルを付ける。 ⑥特に話題になった課題の対応策を話し合う。	・ワークシート ・付箋
4 情報交換	15分	・各グループで、話題の中心になったこと等を発表し合う。	
5 振り返り	10分	・授業及びワークショップを通して学んだこと、今後の授業に生かせることなどを書いたり、話し合ったりする。	・振り返りカード

■ 評価

- ・子どもの姿を基にして、授業の観点及び学ぶ意欲の視点に沿って、目標の達成度や工夫した点の有効性等について協議し、日頃の自分の授業について振り返ることができたか。

研修の計画

授業観察のポイントを事前に確認

授業研究会の前に、授業の見方を確認します。子どもの表情やつぶやき、ノートの記述等から、どの程度理解し、どのように学んでいるかを見取ることは、授業の構想や展開、授業中における指導力の向上に役立つと考えられます。

研修のねらいの確認（例）

- ・参加者全員が活発に意見を出し合うとともに、自分の授業を振り返る。（初期の段階）
- ・活性化が図れてきたので、授業の観点到に絞って話し合い、協議の深化を図る。（深化を図る段階）

ワークショップの進め方

司会者は、限られた時間に全員が話せるように進行する。

- ① 初めて行う場合は、発言する順番を決めて付箋を出しながら、子どもの学びの様子について話す。その際、同じ内容の付箋を持っている人は、順番でなくとも出す。
- ② 授業者は各グループを数分ずつ回り、質問を受ける。
- ③ 観点以外で気付いた点については、その他の欄に貼る。
- ④ 同じような内容の付箋をグルーピングし、タイトルを付ける。このことにより、成果と課題が見えてくる。
- ⑤ 特に話題になった点について、対応策や解決策を話し合う。

教師の振り返り（例）

- ・何気なく行った言葉かけで、子どもが意欲的になったとの意見をもらったので、さらに、個人への言葉かけについて考えていきたいと思います。（授業者）
- ・子どもを丁寧に観察していると、1時間の中に、学ぶ意欲が高まる瞬間が何度か見られました。それを、持続させる指導について考えていきたいと思います。（参観者）

授業を組み立てる上での留意点

○授業のねらい（教科のねらい）を達成することが大切であり、学ぶ意欲を高めることは、そのための手段であることに留意する。

〔参考文献〕「組織力の向上を図る校内研修の充実」平成22年11月 栃木県総合教育センター

【参考資料①】

授業の見方

- 1 子どもの顔が見える位置に立つ
- 2 全体と個を見る
- 3 視点を意識しながら事実を見取る
 - 子どもの表情やつぶやき
 - 教師の投げかけに対する子どもの反応
 - 子どもの取組や変容

付箋の書き方

- 2色の付箋を使い分ける
 - ・水色：参考になる点
 - ・桃色：気になった点、疑問点
- 時刻を記入
- 中太のサインペンで
- 短い文や単語で

○月○日() ○○科「 」 ○年○組 授業者()

	授業の観点	学ぶ意欲の視点	その他
参考になる点			
気になった点			

ワークシートについては、本図のような観点別シート他に、時系列シート、2軸のシート等が考えられる。

プログラム4 学ぶ意欲を高める実践報告会

研修の計画

■ 研修のねらい

学ぶ意欲の向上を目指して取り組んできた実践を発表し合い、今後の取組の参考にするとともに、成果と課題を確認する。

■ 方法・形態 グループ協議

■ 事前準備 学ぶ意欲の向上を目指した授業の実践記録を書いておく。

■ 展 開

内容	時間	概要及び留意点	資料
1 研修のねらいの確認	5分	・研修のねらいと研修の進め方について知らせる。	
2 実践を発表 (4～5人のグループ)	25分	・事前に記しておいた「学ぶ意欲の向上を目指した授業作り」を用いて、発表し合う。	・実践記録用紙
3 成果と課題を確認	10分	・実態に即して、効果的であった取組について話し合う。	
4 情報交換	15分	・各グループで話題の中心になったこと等を発表し合う。	
5 振り返り	5分	・実践発表を通して学んだこと、今後の授業に生かせることなどを書いたり、話し合ったりする。	・振り返りカード

■ 評 価

・実践を発表し合うことにより、互いの成果を認め合い、自分の授業について振り返ることができたか。

研修の進め方

実践記録

発表することよりも、実践することが目的なので、研修担当者は、早い時期に、記録の様式を提案する必要があります。

実践記録の様式は、様々な形が考えられます。右のような項目の入った用紙は、日頃から授業づくりのメモとして使用し、各自がポートフォリオにして蓄積していくと効果的です。

【実践記録の項目】

- ◇学年・組・実施日
 - ◇教科、教材名
 - ◇働きかけた構成要素
- 1 授業における働きかけの工夫
 - 2 子どもの様子
 - 3 成果と課題
 - 4 感想

教師の振り返り（例）

- ・アンケート結果から、何をするにもまず、「安心して学べる環境づくり」が大切であると実感しました。
- ・学級に対して、個々の児童に対して、どのような働きかけが有効なのかを意識して取り組んだため、学ぶ意欲が高められたと思います。
- ・学年で同じ目標を立て、各教科で働きかけを工夫しました。他教科の指導から学ぶことも多く、情報を共有することが大切だと思いました。

留意点・工夫

- 実践記録（A4版1枚程度）を綴じて冊子にすると、一年間の取組のまとめとすることができます。
- 研修を通して、教師の学ぶ意欲も高めることが大切です。



研究のまとめ

学ぶ意欲をはぐくむための7つのポイント

1 学ぶ意欲の構成要素に着目して、授業改善をする

- 学ぶ意欲の構成要素に着目して、授業づくりをしましょう。
- 「学習に関するアンケート」で子どもの学ぶ意欲を測定して、授業の展開や指導の特徴等を振り返り、授業改善に生かしましょう。
- 授業中の観察や「学習に関するアンケート」により学ぶ意欲を把握し、学級や個人の実態に応じた働きかけを工夫しましょう。
- 校内研修で学ぶ意欲をはぐくむための取組について協議して、授業力を高めましょう。

2 人間関係に配慮し、安心して学べる環境をつくる

- 教師が子どもの話をよく聴いて受容し、温かく見守りましょう。
- 子どもが相互に認め合う人間関係を築けるように、支援しましょう。

3 ねらいやゴールを明確に示し、見通しをもたせる

- 学習の進め方の見通しをもち、「自分にもできそうだ」と思えるように、単元の計画や作品例等を示しましょう。
- 子どもが達成感を味わえるように、個に応じた課題を段階的に与えましょう。

4 子どもの疑問や予想を大切に して、授業を展開する

- 「不思議だ」「やってみたい」と感じられるように、課題の提示を工夫しましょう。
- 疑問や予想を基に学習に取り組ませ、気付いたことや分かったことをまとめさせて、実感を伴った理解につなげましょう。

5 多様な学習活動を、計画的に 取り入れる

- 教科や単元の特性に応じて、多様な学習活動を取り入れましょう。

(例) 本で調べる/一人でじっくり考える/選んだ課題に取り組む/難しい問題に挑戦する/体験を通して学ぶ/友達と学び合って考えを深める

6 振り返りを大切にして、学び のよさを自覚させる

- 自分の伸びが自覚できるように、個に応じて言葉かけを工夫しましょう。
- 振り返りの仕方について指導し、自己評価の能力を育てましょう。

7 自己を見つめさせ、将来の目 標をもたせる

- 自分のよさを感じ取れる場を意図的に設定して、自尊感情を高めましょう。
- 就きたい職業について考えさせたり、得意なことを伸ばしたりして、将来の目標や夢をもたせましょう。

資料

学習に関するアンケート

年 組 番

あなたがどのような気持ちで学習しているのか、正直な気持ちを教えてください。
それぞれ、4つの中からあてはまるものを1つえらび、○をつけてください。

1	2	3	4
あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない

No.	質 問 項 目	1つえらんで○をつけてください。			
例	算数と国語では、算数のほうが好きです。	1	②	3	4
1	授業 <small>じゅぎょう</small> でわからないことがあると、先生に聞くことができる。	1	2	3	4
2	もっとうまい解 <small>と</small> き方 <small>かた</small> や別の考 <small>べつ</small> え方はないかと考える。	1	2	3	4
3	毎日、明るく元気に生活している。	1	2	3	4
4	よくわからないことは、わかるまで調べたい。	1	2	3	4
5	いろいろなことを学ぶことは楽しい。	1	2	3	4
6	興 <small>きょうみ</small> 味のあることは調べずにはいられない。	1	2	3	4
7	テストがあれば、自分で計画をたてて勉強する。	1	2	3	4
8	自分もっている能 <small>のうりょく</small> 力をじゅうぶんに発 <small>はつき</small> 揮 <small>き</small> したい。	1	2	3	4
9	社会のために役立つような人になりたい。	1	2	3	4
10	勉強面では友だちからたよられていると思う。	1	2	3	4
11	授業では友だちと協 <small>きょうりょく</small> 力して学ぶことも多い。	1	2	3	4
12	先生は学習のことについてほめてくれる。	1	2	3	4
13	今までよりも、むずかしい問題に取り組むことが多い。	1	2	3	4
14	毎日の生活 <small>じゅうじつ</small> が充実していると感じている。	1	2	3	4
15	もっとかしくなりたい。	1	2	3	4
16	授業では友だちと話すことで、より深く考えることができる。	1	2	3	4
17	できるだけ自分ひとりの力 <small>かだい</small> で課 <small>かいけつ</small> 題を解決しようとしている。	1	2	3	4
18	学校では落ち着いて授業を受けている。	1	2	3	4
19	自分から勉強に取り組んでいる。	1	2	3	4
20	むずかしい問題にであうと、よりやる気がでる。	1	2	3	4
21	授業では友だちに教えたり、教わったりすることも多い。	1	2	3	4
22	わからないことがあると、いろいろな方法で調べている。	1	2	3	4
23	自分は勉強がよくできると思う。	1	2	3	4
24	失 <small>しっぱい</small> 敗しても学ぶことはおもしろい。	1	2	3	4
25	疑 <small>ぎもん</small> 問やふしぎに思うことは、わかるまで調べたい。	1	2	3	4
26	むずかしい問題にであっても、かんたんには先生や友だちの助けは求めない。	1	2	3	4
27	クラスは発 <small>はつげん</small> 言しやすい雰 <small>ふんい</small> 囲気である。	1	2	3	4
28	思いやりのある人になりたい。	1	2	3	4

◎どの質しつもん問にも1つずつ○がついているかどうかを、たしかめてください。ご協きょうりょく力ありがとうございました。

学習に関するアンケートの質問項目は、次の要素から作成しました。

○欲求・動機レベル〔知的好奇心、有能さへの欲求、向社会的欲求〕

○学習行動レベル〔情報収集、自発学習、挑戦行動、深い思考、独立達成、協同学習〕

○認知・感情レベル〔おもしろさと楽しさ、有能感、充実感〕

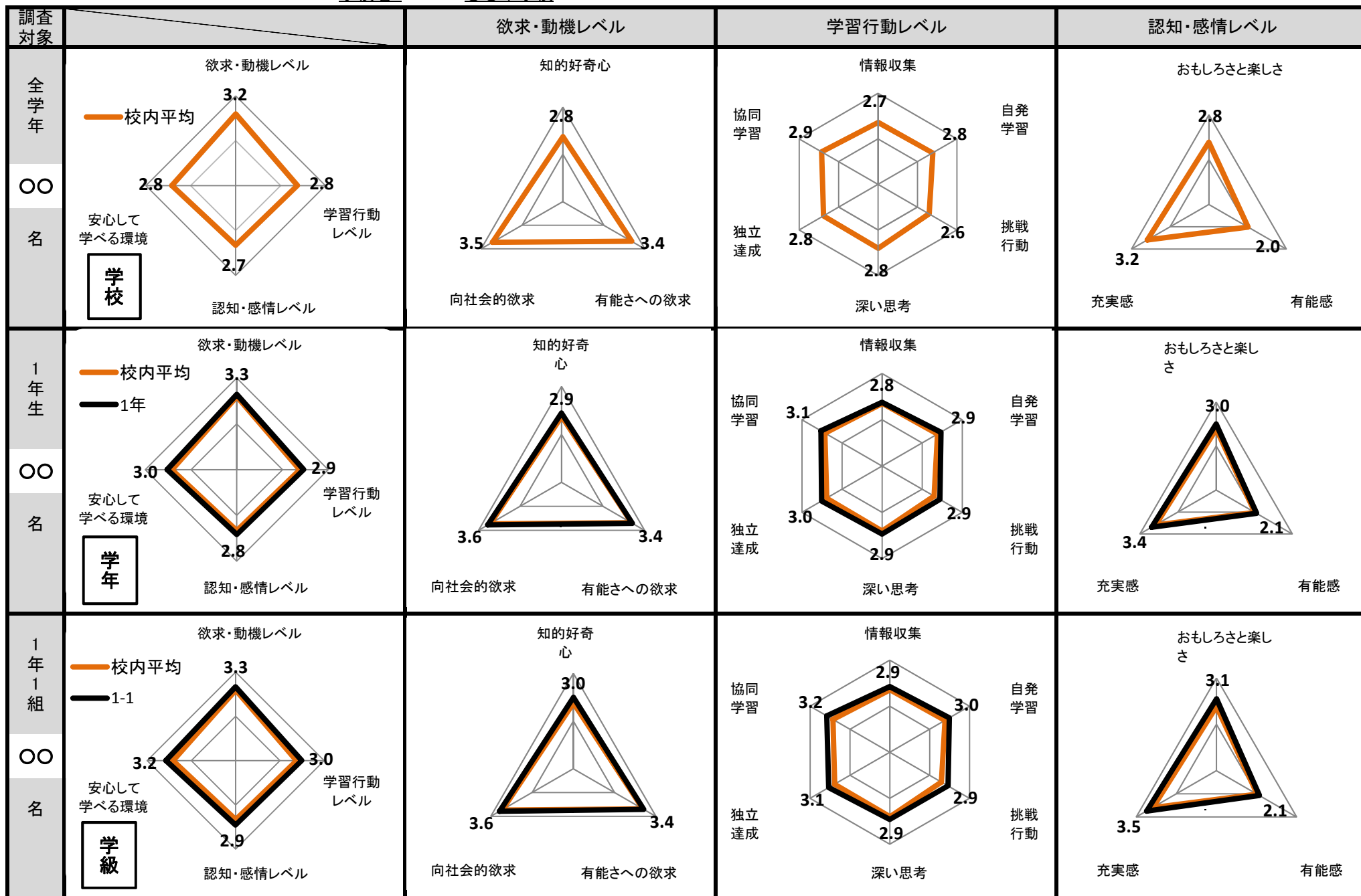
要素	No.	質問項目
安心して学べる環境	1	授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる。
深い思考	2	もっとうまい解き方や別の考え方はないかと考える。
充実感	3	毎日、明るく元気に生活している。
知的好奇心	4	よくわからないことは、わかるまで調べたい。
おもしろさと楽しさ	5	いろいろなことを学ぶことは楽しい。
情報収集	6	興味のあることは調べずにはいられない。
自発学習	7	テストがあれば、自分で計画をたてて勉強する。
有能さへの欲求	8	自分もっている能力をじゅうぶんに発揮したい。
向社会的欲求	9	社会のために役立つような人になりたい。
有能感	10	勉強面では友だちからたよられていると思う。
協同学習	11	授業では友だちと協力して学ぶことも多い。
安心して学べる環境	12	先生は学習のことについてほめてくれる。
挑戦行動	13	今までよりも、むずかしい問題に取り組むことが多い。
充実感	14	毎日の生活が充実していると感じている。
有能さへの欲求	15	もっとかしこくなりたい。
深い思考	16	授業では友だちと話すことで、より深く考えることができる。
独立達成	17	できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている。
安心して学べる環境	18	学校では落ち着いて授業を受けている。
自発学習	19	自分から勉強に取り組んでいる。
挑戦行動	20	むずかしい問題にであうと、よりやる気がでる。
協同学習	21	授業では友だちに教えたり、教わったりすることも多い。
情報収集	22	わからないことがあると、いろいろな方法で調べている。
有能感	23	自分は勉強はよくできると思う。
おもしろさと楽しさ	24	失敗しても学ぶことはおもしろい。
知的好奇心	25	疑問やふしぎに思うことは、わかるまで調べたい。
独立達成	26	むずかしい問題にであっても、かんたんには先生や友だちの助けは求めない。
安心して学べる環境	27	クラスは発言しやすい雰囲気である。
向社会的欲求	28	思いやりのある人になりたい。

「学習に関するアンケート」のレーダーチャート(例)

学校・学年・学級のデータ

学校名: ○○中学校

71



「学習に関するアンケート」のレーダーチャート(例)

個人のデータ

〇〇中学校

1年1組1番

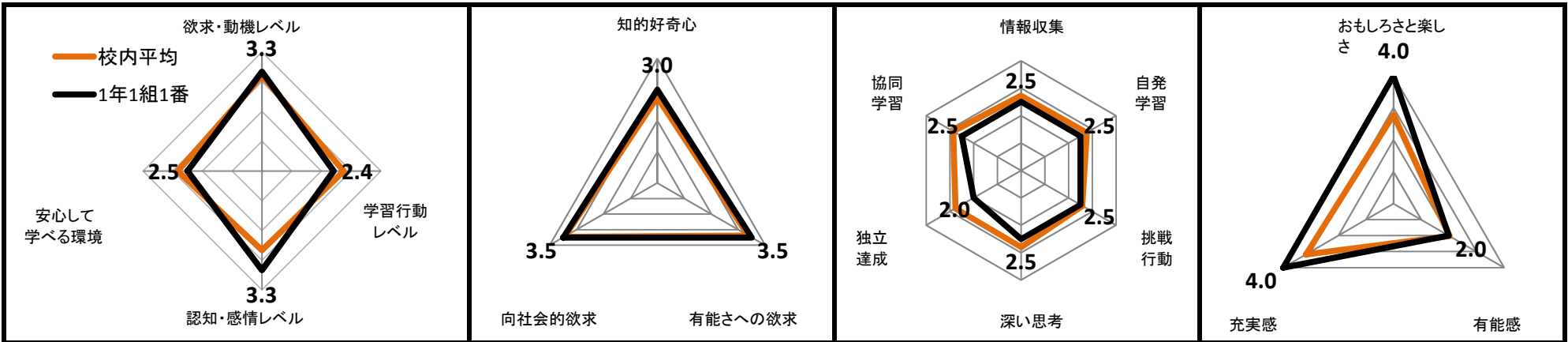
※ ↗ は、校内平均より0.2以上上昇 ↘ は、校内平均より0.2以上下降

欲求・動機レベル	比較	学習行動レベル	比較	認知・感情レベル	比較	安心して学べる環境	比較
3.3	校内平均より +0.14	2.4	-0.33 ↘	3.3	0.67 ↗	2.5	-0.34 ↘

知的好奇心	比較	有能さへの欲求	比較	向社会的欲求	比較	情報収集	比較
3.0	校内平均より 0.24 ↗	3.5	+0.13	3.5	+0.04	2.5	-0.22 ↘

自発学習	比較	挑戦行動	比較	深い思考	比較	独立達成	比較
2.5	校内平均より -0.27 ↘	2.5	-0.08	2.5	-0.30 ↘	2.0	-0.77 ↘

協同学習	比較	おもしろさと楽しさ	比較	有能感	比較	充実感	比較
2.5	校内平均より -0.36 ↘	4.0	1.97 ↗	2.0	-1.18 ↘	4.0	1.34 ↗



◇参考文献・参考資料

1 参考文献等

- ・桜井茂男 著「自ら学ぶ意欲をはぐくむ先生」 図書文化 平成 10 年
- ・桜井茂男 著「学習意欲の心理学 自ら学ぶ子どもを育てる」 誠信書房 1997 年
- ・桜井茂男 編「最新 教育心理学 教職にかかわるすべての人に」 図書文化 2004 年
- ・エドワード・L・デシ+リチャード・フラスト 桜井茂男 監訳
「人を伸ばす力 内発と自律のすすめ」 新曜社 1999 年
- ・櫻井茂男 著「自ら学ぶ意欲の心理学 キャリア発達の視点を加えて」 有斐閣 2009 年
- ・志水宏吉 著「学力を育てる」 岩波新書 2005 年
- ・辰野千壽 著「科学的根拠で示す 学習意欲を高める 12 の方法」 図書文化 2009 年
- ・波多野誼余夫 稲垣佳世子 著「知的好奇心」 中公新書 1973 年
- ・鹿毛雅治 著「子どもの姿に学ぶ教師『学ぶ意欲』と『教育的瞬間』」 教育出版 2007 年
- ・小島宏 著「学ぶ意欲を高める 100 の方法」 教育出版 2006 年
- ・「初等教育資料」 文部科学省 861 号
- ・「指導と評価」 図書文化社 2004 年 4 月、5 月、6 月、7 月、8 月、9 月
- ・香川県教育センター「『子どもの視点』を生かした授業改善」 平成 22 年

2 参考資料

<総合教育センター作成資料>

- ・「学ぶ意欲をはぐくむ」 平成 22 年
- ・「組織力の向上を図る校内研修の充実」 平成 22 年
- ・「授業評価と授業研究会に関する参考資料（高等学校）」 平成 20 年
- ・「高め合おう『授業力』！磨き合おう『教師力』！vol. 1」 平成 20 年
- ・「高め合おう『授業力』！磨き合おう『教師力』！vol. 2」 平成 20 年

<栃木県教育委員会作成資料>

- ・「学業指導を知っていますか！」 平成 21 年

◇ 指導助言者及び研究協力委員

指 導 助 言

筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授 櫻井 茂男

研究協力校及び研究協力委員

岩舟町立静和小学校	教諭	植山 桂子
さくら市立南小学校	教諭	加藤 多美江
那須塩原市立東那須野中学校	教諭	笹沼 恵子
佐野市立西中学校	教諭	増田 博



学ぶ意欲をはぐくむ

－ 「学習に関するアンケート」を活用して－

発 行 平成23年 3 月
栃木県総合教育センター 研究調査部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303
URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>

